

2022 年度

情報公開

- 大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書
- 実務経験のある教員等による授業科目
- 客観的な指標の算出方法
- 卒業の認定に関する方針
- シラバス
- 学校関係者評価

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※ 専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	奈良リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	理学療法学科	夜・通信	3315 単位時間	240単位時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

入手方法：本校事務局への請求により一覧表の配布・閲覧可  
ホームページにて公開 ([www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html](http://www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html))

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の1-②関係【実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》】

学校名	奈良リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

学科名		理学療法学科	
実務経験のある教員等による授業科目名	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	
教育学	30 単位時間	240単位時間	
心理学	30 単位時間		
生化学	30 単位時間		
物理学	30 単位時間		
統計学	30 単位時間		
情報処理	30 単位時間		
人間工学	30 単位時間		
英語Ⅰ	30 単位時間		
英語Ⅱ	30 単位時間		
保健体育	30 単位時間		
コミュニケーション学	45 単位時間		
解剖学Ⅰ	120 単位時間		
解剖学Ⅱ	60 単位時間		
生理学Ⅰ	60 単位時間		
生理学Ⅱ	75 単位時間		
単位数又は授業時数の合計			

学科名	理学療法学科	
実務経験のある教員等による授業科目名	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数
基礎運動学Ⅰ	60 単位時間	240単位時間
基礎運動学Ⅱ	60 単位時間	
人間発達学	15 単位時間	
病理学	30 単位時間	
医学概論	15 単位時間	
内科学	60 単位時間	
神経科学	45 単位時間	
整形外科学	60 単位時間	
精神医学	30 単位時間	
小児科学	15 単位時間	
臨床心理学	30 単位時間	
臨床医学Ⅰ	15 単位時間	
臨床医学Ⅱ	15 単位時間	
臨床医学Ⅲ	15 単位時間	
リハビリテーションⅠ	30 単位時間	
単位数又は授業時数の合計	495 単位時間	

学科名	理学療法学科	
実務経験のある教員等による授業科目名	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数
リハビリテーションⅡ	15 単位時間	240単位時間
保健医療福祉関係論	45 単位時間	
理学療法概論	30 単位時間	
臨床運動学	60 単位時間	
理学療法障害学Ⅰ	15 単位時間	
理学療法障害学Ⅱ	45 単位時間	
理学療法研究概論	15 単位時間	
理学療法管理学	30 単位時間	
理学療法評価総論Ⅰ	60 単位時間	
理学療法評価総論Ⅱ	60 単位時間	
理学療法評価各論Ⅰ	30 単位時間	
理学療法評価各論Ⅱ	30 単位時間	
理学療法評価演習	30 単位時間	
動作分析学Ⅰ	30 単位時間	
動作分析学Ⅱ	30 単位時間	
単位数又は授業時数の合計	525 単位時間	

学科名	理学療法学科	
実務経験のある教員等による授業科目名	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数
基礎運動療法学	75 単位時間	240単位時間
運動療法学Ⅰ	30 単位時間	
運動療法学Ⅱ	60 単位時間	
運動療法学Ⅲ	30 単位時間	
物理療法学Ⅰ	30 単位時間	
物理療法学Ⅱ	30 単位時間	
義肢学	45 単位時間	
装具学	30 単位時間	
日常生活活動学総論	30 単位時間	
日常生活活動学各論	30 単位時間	
理学療法治療各論Ⅰ	30 単位時間	
理学療法治療各論Ⅱ	30 単位時間	
理学療法治療各論Ⅲ	30 単位時間	
理学療法治療各論Ⅳ	30 単位時間	
理学療法治療各論Ⅴ	30 単位時間	
単位数又は授業時数の合計	540 単位時間	

学科名	理学療法学科	
実務経験のある教員等による授業科目名	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数
理学療法治療各論Ⅵ	45 単位時間	240単位時間
理学療法治療各論Ⅶ	30 単位時間	
理学療法治療各論Ⅷ	30 単位時間	
理学療法治療演習	30 単位時間	
生活環境論	30 単位時間	
地域理学療法学	30 単位時間	
地域サービス技術論	30 単位時間	
見学実習	40 単位時間	
評価実習	200 単位時間	
総合臨床実習	600 単位時間	
卒業課題	30 単位時間	
	単位時間	
	単位時間	
	単位時間	
	単位時間	
単位数又は授業時数の合計	1095 単位時間	

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	奈良リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公開  
([www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html](http://www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html))

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	歯科医院 院長	2021.7.15 ~ 2026.7.14	民間の視点からの適正 な学校運営の指導・助 言
非常勤	社会福祉法人 事務長	同上	同上
(備考)			





様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	奈良リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

1. 当該年度の授業計画の校長・副校長・学科長・主任・各学年担任による確認・評価
2. 教科担当決定・シラバス執筆依頼
3. 原稿提出
4. 新年度授業計画(シラバス)の各学年担任による原稿の確認
5. 授業計画原案を校長・副校長・学科長・主任に報告・確認
6. 完成・公表(当該年度の開講前の3月中)

授業計画書の公表方法

本校事務室への請求により印刷物の配布・閲覧可  
ホームページにて公開 ([www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html](http://www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html))

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

授業科目の評価については、シラバスに示している当該科目の「学生の到達目標」に基づいて、期末に試験を実施し評価する。学外における実習科目については、実習機関における評価を参考にして学校が評価に当たっている。  
試験及び実習の評価は優(80点以上)・良(70点以上80点未満)・可(60点以上70点未満)・不可(60点未満)をもって表し、可以上を合格とする。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

公平性と透明性を確保し、統一した基準で、かつ国際的に通用する基準を用いるため、本校ではGPA (Grade Point Average) 制度を用いた成績評価を行います。修学指導や優秀な学生の表彰等に利用します。GPAは、以下の方法で算出します。

(a) GPA の対象となる授業科目

以下の適用除外科目以外の登録されたすべての授業科目をGPAの対象とします。

- ① 合格か不合格かだけを判定する科目
- ② 編入学又は転入学した際の単位認定科目
- ③ 本学入学前に修得した単位認定科目
- ④ 他大学との単位互換等で修得した科目

(b) 成績評価の評定記号と付加するグレード・ポイント (GP)

成績評価は点数方式で行い、以下の評定記号 (優～可) の区分に応じたGPを算出します。

(c) GPAの算出方法

GPA値は、対象授業科目のうち、履修登録した科目について、それぞれの単位数にグレード・ポイント (4, 3, 2, 1, 0のいずれか) をかけ、その合計ポイント (GPS) を、それぞれの単位数の総和で割った数値です。

評価区分 評定記号 GP

100～90点 優<sup>+</sup> 4

89～80点 優<sup>B</sup> 3

79～70点 良<sup>B</sup> 2

69～60点 可<sup>B</sup> 1

59～0点 不可<sup>B</sup> 0

単位認定 認定<sup>B</sup> し

$$\frac{4.0 \times \text{「100～90点」の単位数} + 3.0 \times \text{「89～80点」の単位数} + 2.0 \times \text{「79～70点」の単位数} + 1.0 \times \text{「69～60点」の単位数}}{\text{受験済科目の総単位数 (「不可」の単位数を含む)}}$$

\* 単位認定は、算出の対象としません。

\* 小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数値で、成績通知書に記載します。  
成績証明書…… 成績証明書発行時点におけるGPA値

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

ホームページにて公開  
([www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html](http://www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html))

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

1. 豊かな人間性を養い、有能にして広く社会の要請に応え得る理学療法士をする」との本校の教育理念及び教育目標に基づき、3年制専門学校としての特長を生かし、最短の年限で、リハビリテーション医療を担う専門職としての社会に質の高い理学療法士を養成する。

2. 理学療法士として必要不可欠な知識や専門的技術及び技能の修得を図るとともに、コミュニケーション能力や協調性を培うなか、基本的な理学療法については独立して実施できることを到達目標とし、即戦力となる実践力ある人材を育成するとともに、高度・多様化する保健医療福祉分野を担う探求心と向上心を備えた人材を育成し、広く社会の医療・福祉に寄与できる人材を育成する。

**【学則 第五節 第27条】**

(卒業の認定)

① 学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。

② 卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士(医療専門課程)の称号を付与する。

③ 学校長は、卒業を認定した者に対し、本校所定の卒業証書を授与する。

④ 本校を卒業した者には、「理学療法士国家試験」の受験資格が与えられる。

理学療法士及び作業療法士並びに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、学則 第四節に定める教育課程（下記参照）における授業科目の単位を取得した者に対し、学則第五節卒業等並びに授業科目に関する規定に従い卒業を認定する。

**【理学療法学科】**

基礎分野 14単位

専門基礎分野 34単位

専門分野 69単位

合計 117単位

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

R4学生便覧 (P. 5) 及びホームページにて公開  
[www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html](http://www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html)

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	奈良リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		12人	12人	14人
内訳	第Ⅰ区分	7人	9人	
	第Ⅱ区分	3人	0人	
	第Ⅲ区分	2人	3人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				14人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）
--	---------	---

	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	1人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	1人		
計	2人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	2人
3月以上の停学	0人
年間計	2人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
---------	----

訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 <small>（単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）</small>	0人		
GPA等が下位4分の1	0人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

## 実務経験のある教員等による授業科目一覧表(理学療法学科)

分野	科目	実務教員 科目	指定 単位数	実施時間			1学年		2学年		3学年	
				講義 演習	実験 実習 実技	単位数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							時間	時間	時間	時間	時間	時間
基礎 分野	教 育 学	○	(教育内容)	30		1	30					
	生 化 学	○		30		1	30					
	統 計 学	○		30		2		30				
	情 報 処 理	○		30		1	30					
	英 語 I	○		30		1	30					
	英 語 II	○		30		2		30				
	コミュニケーション学	○		45		2	45					
基礎分野計		14単位	225H		10単位	165H	60H					
専 門 基 礎 分 野	解 剖 学 I	○	人体の構造 と機能及び 心身の発達	120		4	60	60				
	解 剖 学 II	○		60		2	30	30				
	生 理 学 I	○		60		2	60					
	生 理 学 II	○		75		3		75				
	基 礎 運 動 学 I	○		60		2		60				
	基 礎 運 動 学 II	○		60		2			60			
	人 間 発 達 学	○		15		1	15					
	小 計		12単位	450H		16単位	165H	225H	60H			
	病 理 学	○	疾病と障が いの成り立 ち及び回復 過程の促進	30		1		30				
	医 学 概 論	○		15		1	15					
	内 科 学	○		60		2			30	30		
	神 経 科 学	○		45		2			30	15		
	臨 床 医 学 II	○		15		1				15		
	臨 床 医 学 III	○		15		1				15		
	整 形 外 科 学	○		60		2			30	30		
精 神 医 学	○	30			1			30				
小 児 科 学	○	15			1			15				
臨 床 心 理 学	○	30		1			30					
小 計		12単位	315H		13単位	15H	30H	165H	105H			
リハビリテーション I	○	(教育内容) 保健医療福祉 とリハビリ テーションの 理念	30		1		15					
リハビリテーション II	○		15		1				15			
保 健 医 療 福 祉 関 係 論	○		45		2					15	30	
小 計		2単位	90H		4単位		15H		15H	15H	30H	
専門基礎分野計		26単位	855H		33H	180H	270H	225H	120H	15H	30H	



## 実務経験のある教員等による授業科目一覧表(理学療法学科)

分野	科目	実務教員 科目	指定 単位数	実施時間			1学年		2学年		3学年	
				講義 演習	実験 実習 実技	単位数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							時間	時間	時間	時間	時間	時間
専 門 分 野	理学療法概論	○	(教育内容) 基礎理学 療法学	30		2	30					
	臨床運動学	○		60		2			30	30		
	理学療法障害学Ⅰ	○		15		1		15				
	理学療法障害学Ⅱ	○		45		1					30	15
	理学療法研究概論	○		15		1					15	
	小計		6単位	165H		7単位	30H	15H	30H	30H	45H	15H
	理学療法評価総論Ⅰ	○	(教育内容)		60	2		60				
	理学療法評価総論Ⅱ	○			60	2			60			
	理学療法評価各論Ⅰ	○			30	1			30			
	理学療法評価各論Ⅱ	○	理学療法評 価学		30	1				30		
	理学療法評価演習	○			30	1				30		
	動作分析学Ⅰ	○			30	1			30			
	動作分析学Ⅱ	○			30	1					30	
	小計		5単位	90H	180H	9単位		60H	120H	60H	30H	
	基礎運動療法学	○	(教育内容)		75	3	30	30				
	運動療法学Ⅰ	○			30	1		30				
	運動療法学Ⅱ	○			60	2		60				
	運動療法学Ⅲ	○			30	1			30			
	物理療法学Ⅰ	○			30	1			30			
	物理療法学Ⅱ	○			30	1				30		
	義肢学	○			45	2				45		
	装具学	○			30	1				30		
	日常生活活動学総論	○			30	1			30			
	日常生活活動学各論	○			30	1				30		
	理学療法治療各論Ⅰ	○		理学療法 治療学	30	1			30			
	理学療法治療各論Ⅱ	○			30	1				30		
	理学療法治療各論Ⅲ	○			30	1			30			
	理学療法治療各論Ⅳ	○			30	1			30			
	理学療法治療各論Ⅴ	○			30	1				30		
	理学療法治療各論Ⅵ	○			45	2				30		
	理学療法治療各論Ⅶ	○			30	1					30	
	理学療法治療各論Ⅷ	○			30	1				30		
	理学療法治療演習	○			30	1				30		
小計		20単位	510H	165H	24単位	30H	120H	180H	285H	30H		
生活環境論	○	(教育内容)		30	1				60			
地域理学療法学	○	地域理学 療法学		30	1					30		
地域サービス技術論	○			30	1					30		
小計		3単位	90H		3単位				60H	60H		
見学実習	○	(教育内容)		40	1		40					
評価実習	○	臨床実習		200	5			80	120			
総合臨床実習	○			600	15					320	280	
小計		20単位		840H	21単位		40H	80H	120H	320H	280H	
卒業課題	○			30	2					15	15	
小計				30H	2単位					15H	15H	
専門分野計		53単位	885H	345H	45H	60H	195H	330H	435H	180H	30H	
合計			1965H	345H	88単位	405H	525H	555H	555H	195H	60H	

○令和3年度

客観的な指標の算出方法
当該年度に進級し、当該学年で履修すべき全科目を履修した者を算出対象とした(留年生は算出対象外) 履修科目の成績評定を点数化し、全科目のGPAを算出した(4点満点で点数化)

学科名	理学療法学科	学年	1	学生数	30
成績の分布					
指標の数値		0以上～1未満	1以上～2未満	2以上～3未満	3以上～4以下
人数			10	13	7
下位1/4に該当する人数 9人					
下位1/4に該当する指標の数値 1.93以下					

学科名	理学療法学科	学年	2	学生数	21
成績の分布					
指標の数値		0以上～1未満	1以上～2未満	2以上～3未満	3以上～4以下
人数			10	8	3
下位1/4に該当する人数 6人					
下位1/4に該当する指標の数値 1.77以下					

学科名	理学療法学科	学年	3	学生数	20
成績の分布					
指標の数値		0以上～1未満	1以上～2未満	2以上～3未満	3以上～4以下
人数			5	12	3
下位1/4に該当する人数 5人					
下位1/4に該当する指標の数値 1.98以下					

## 卒業の認定に関する方針について

### 本校のディプロマポリシー

1. 「豊かな人間性を養い、有能にして広く社会の要請に応え得る理学療法士を養成する」との本校の教育理念及び教育目標に基づき、3年制専門学校としての特長を生かし、最短の年限で、リハビリテーション医療を担う専門職としての社会に質の高い理学療法士を養成する。

2. 理学療法士として必要不可欠な知識や専門的技術及び技能の修得を図るとともに、コミュニケーション能力や協調性などを培うなか、基本的な理学療法については独立して実施できることを到達目標とし、即戦力となる実践力ある人材を育成するとともに、高度・多様化する保健医療福祉分野を担う探求心と向上心を備えた人材を育成し、広く社会の医療・福祉に寄与できる人材を育成する。

### 卒業の認定について

#### 【学則 第五節 第27条】

- ① 学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。
- ② 卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士(医療専門課程)の称号を付与する。
- ③ 学校長は、卒業を認定した者に対し、本校所定の卒業証書を授与する。
- ④ 本校を卒業した者には、「理学療法士国家試験」の受験資格が与えられる。

理学療法士及び作業療法士法並びに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、学則 第四節に定める教育課程（下記参照）における授業科目の単位を取得した者に対し、学則第五節卒業等並びに授業科目に関する規定に従い卒業を認定する。

#### 【理学療法学科】

基礎分野	14単位
専門基礎分野	34単位
専門分野	69単位
合計	117単位

以上

令和4年度

# 講義シラバス

奈良リハビリテーション専門学校



# 目次

## 【基礎分野】

教育学	……	1
生化学	……	2
統計学	……	3
情報処理	……	4
英語Ⅰ	……	5
英語Ⅱ	……	6
保健体育	……	7
コミュニケーション学	……	8

## 【専門基礎分野】

※解剖学Ⅰ	……	10
※解剖学Ⅱ	……	12
※生理学Ⅰ	……	14
生理学Ⅱ	……	15
基礎運動学Ⅰ	……	18
基礎運動学Ⅱ	……	19
人間発達学	……	20
医学概論	……	21
※内科学	……	22
※神経科学	……	23
※整形外科学	……	25
小児科学	……	26
臨床心理学	……	27
臨床医学Ⅱ	……	28
臨床医学Ⅲ	……	29
リハビリテーションⅠ	……	30
リハビリテーションⅡ	……	31
※保健医療福祉関係論	……	32

## 【専門分野】

理学療法概論	……	33
※臨床運動学	……	34
理学療法障害学Ⅰ	……	35
※理学療法障害学Ⅱ	……	36
理学療法研究概論	……	37
※理学療法管理学	……	38
理学療法評価総論Ⅰ	……	39
理学療法評価総論Ⅱ	……	40
理学療法評価各論Ⅰ	……	41
理学療法評価各論Ⅱ	……	42
理学療法評価演習	……	43
動作分析学Ⅰ	……	44
動作分析学Ⅱ	……	45
※基礎運動療法学	……	46
運動療法学Ⅰ	……	48
運動療法学Ⅱ	……	49
運動療法学Ⅲ	……	50
物理療法学Ⅰ	……	51
物理療法学Ⅱ	……	52
義肢学	……	53
装具学	……	54
日常生活活動学総論	……	55
日常生活活動学各論	……	56
理学療法治療各論Ⅰ	……	57
理学療法治療各論Ⅱ	……	58
理学療法治療各論Ⅲ	……	59
理学療法治療各論Ⅳ	……	60
理学療法治療各論Ⅴ	……	61
理学療法治療各論Ⅵ	……	62
理学療法治療各論Ⅶ	……	63
理学療法治療各論Ⅷ	……	64
理学療法治療演習	……	65
生活環境論	……	66
地域理学療法学	……	67
地域サービス技術論	……	68
見学実習	……	69
※評価実習	……	70
※総合臨床実習	……	71
卒業課題	……	72

※:通期科目

【科目名】

## 教育学

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	前期	単位数	1
担当	浅岡 雅子	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
現在の教育問題や動向について学ぶとともに、理学療法士の患者指導という観点から教育観を探求する。 ①教育観を理学療法士の視点で述べるができる ②理学療法と患者教育の関係性を説明ができる							
回数	講義内容						備考
1	オリエンテーション						
2	人間の成長と発達と教育 I						
3	人間の成長と発達と教育 II						
4	コーチングスキルについて						
5	コーチングスキル I 聴くこと						
6	コーチングスキル II 質問すること						
7	コーチングスキル III 伝えること						
8	コーチングスキル まとめ						
9	障害と特別支援教育 I						
10	障害と特別支援教育 II						
11	生涯学習と成人教育 I						
12	生涯学習と成人教育 II						
13	学習指導 I						
14	学習指導 II						
15	まとめ						
備考	プレゼンテーションを追加(グループワーク)						

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

## 生化学

令和4年度

実務教員科目

○

分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	前期	単位数	1
担当	宮岡 朋子	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

エネルギー産生機構や糖質・脂質・蛋白質代謝、血液性状の変化等の基礎的な生化学の知識を学習する。

- ①エネルギー機構について生化学的に説明できる
- ②代謝性疾患と代謝異常について説明できる

回数	講義内容	備考
1	生化学を学ぶための基礎知識 I	
2	生化学を学ぶための基礎知識 II	
3	糖質	
4	脂質・タンパク質	
5	代謝の概要	
6	酵素・補酵素	
7	糖代謝	
8	糖代謝	
9	脂質代謝	
10	タンパク質代謝	
11	ポルフィリン質代謝と異物代謝	
12	核酸・核酸代謝	
13	遺伝子の複製・転写	
14	遺伝子の転写・翻訳・修飾	
15	シグナル伝達	

## 【成績評価方法】

<内容>①平常点②筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
系統看護学講座 専門基礎2 人体の構造と機能2 生化学 第14版	畠山鎮次	医学書院

【科目名】

## 統計学

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	2
担当	治部 哲也	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

医療に必要な有意差検定や相関分析等の統計手法を学習する。

①統計用語について説明できる

②代表的な統計手法(平均値の差の検定、相関など)の結果の読み方について説明できる

③サンプルサイズについて説明できる

回数	講義内容	備考
1	統計学のスタート、データの種類と尺度、データの収集	
2	統計処理の実際	
3	集団の特徴をとらえる	
4	推測統計学(標本平均の分布)	
5	PCを使用した代表値の算出、集団の特徴を分布曲線で表す 正規分布における個々のデータの位置を知る、推測統計学(母集団と標本)	
6	正規分布の基準化(応用)	
7	統計的仮説検定	
8	PCを使用した対応のない2つの平均の差の検定、実践演習	
9	統計的仮説検定2-②	
10	PCを使用した対応のある2つの平均の差の検定、実践演習	
11	質的データの分析	
12	区間推定法	
13	2つの変数の関係を調べる	
14	相関分析の実践	
15	研究の流れに沿った分析の実践、まとめ	

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
15 レクチャーシリーズ リハビリテーション統計学	石川 朗	中山書店



【科目名】

## 情報処理

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	前期	単位数	1
担当	大又 巧也	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
<p>基本的な PC 操作や表計算等の使い方を演習形式で学習する。</p> <p>①PC を使い文章を作成できる</p> <p>②PC を使い表計算ができる</p> <p>③PC を使いパワーポイントで発表ができる</p>							
回数	講義内容						備考
1	コンピュータの基本操作、文章入力						
2	Word①、文章入力とページ設定						
3	Word②、文字書式と段落書式						
4	Word③、ビジネス文書の作成						
5	Word④、グラフィカルな文章の作成						
6	Word⑤、レポートの作成						
7	Power point①、基本的なスライドの作成						
8	Power point②、見栄えの良いスライドの作成						
9	Excel①、数式を使った表作成						
10	Excel②、関数を使った表作成(1)						
11	Excel③、関数を使った表作成(2)						
12	Excel④、グラフ作成						
13	PowerPoint③、アニメーションの設定						
14	PowerPoint④						
15	総合的な演習課題						

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①実技試験(教科書・プリント持ち込み可) ②平常点

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
医療従事者のための情報リテラシー 第2班	森由紀・中村健壽	日経 BP 社

【科目名】

## 英語 I

令和 4 年度

実務教員科目

○

分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	大脇衣里	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

一般教養および専門領域の理解に必要となる基礎的な語学力を身につけられるように学習する。

①英語を用いた基礎的なコミュニケーションをとることができる

回数	講義内容	備考
1	オリエンテーション、Unit1(Speaking About Yourself)、Unit2(What Do You DO?)	
2	Unit3(What Does He Look Like?)	
3	Review、会話テスト①	
4	Unit4(Where Are You From?)	
5	Unit5(Likes and Dislikes)	
6	Unit6(What's She Like?)	
7	Review、会話テスト②	
8	Unit7(Tell Me About Your Family)	
9	Unit8(Communication)	
10	Unit9(How Are You Feeling)	
11	Review、会話テスト③	
12	Unit10(Memories)	
13	Unit11(Talking About Health)	
14	Unit12(Mindset)	
15	Review、会話テスト④	

## 【成績評価方法】

<内容>①会話テスト4回(各10点;計40点)

②筆記試験(60点)

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
Speaking of people:ひととつながる英語コミュニケーション	Peter Vincent 中里 菜穂子	南雲堂

【科目名】

## 英語Ⅱ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	2
担当	大脇衣里	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

医学英語や用語を理解し、英文献の読解力を身につけられるように学習する。

- ①英語を用いた基礎的なコミュニケーションをとることができる
- ②医学英論文を読むための前段階として、基礎的な英文書を読むことができる

回数	講義内容	備考
1	オリエンテーション、Lesson1・2	
2	Lesson3・4・5	
3	Lesson6・7・8	
4	会話テスト①	
5	Lesson9・10	
6	会話テスト②	
7	Lesson11・12	
8	Lesson13・14	
9	会話テスト③	
10	Lesson15・16	
11	Lesson17・18	
12	会話テスト④	
13	Lesson19・20	
14	Lesson21・22	
15	会話テスト⑤	

## 【成績評価方法】

<内容> 筆記試験、会話テスト5回(各10点;合計50点)、持ち込みなし

<基準> 6割以上で単位修得。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
PT・OT が書いたリハビリテーション 英会話	三木貴弘	Medical View

【科目名】

## 保健体育

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	1
担当	篠原 薫	時間数	30	回数	15	授業方法	実験・実習・実技

## 授業の概要、到達目標

スポーツを通じて、健康と体育を科学的に捉えることを学ぶ。

- ①運動が健康に与える影響について説明することができる
- ②各種スポーツの障害特性とその予防について述べるすることができる

回数	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	運動生理学:ストレッチ等、ドッジボール	
3	ショートテニス:ダブルス 5分×6試合	
4	ショートテニス:ダブルス 5分×6試合	
5	ショートテニス:ダブルス 5分×6試合	
6	ショートテニス:ダブルス 5分×6試合	
7	ショートテニス:ダブルス 5分×6試合	
8	バスケットボール:8分×6試合	
9	卓球:ダブルス 4分×9試合	
10	卓球:ダブルス 4分×9試合	
11	卓球:ダブルス 4分×9試合	
12	フットサル:6分×10試合	
13	卓球:ダブルス 4分×9試合	
14	ショートテニス、卓球:団体戦 8試合	
15	フットサル:5チーム 6試合	
備考	進度、習熟度により変更あり	

## 【成績評価方法】

<内容>①平常点②実技試験

<基準>①②合算を素点とし、その6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
なし		

【科目名】

## コミュニケーション学

令和4年度

実務教員科目

○

分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	前期	単位数	2
担当	宮崎尚也、太田むつ子 森川あやこ	時間数	30/45	回数	15/23	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

言語的又は非言語的手段により、良好な対人関係を築くことができるよう学習する。

- ①良好なコミュニケーションについて説明できる
- ②基礎的な医療面接を実施することができる

回数	講義内容	備考
1	コミュニケーション学総論 「コミュニケーションの種類と構造」	宮崎
2	コミュニケーションスキル 心をつなぎ・絆を結ぶコミュニケーション	森川
3	交流（お互いを知る、つながる 10 箇条）	太田
4	自分を知る 「メタ認知」	宮崎
5	話し方、文章読解	太田
6	みる力 「観察力と洞察力」	宮崎
7	合意形成と協働	宮崎
8	伝える力① 「言語情報」	宮崎
9	伝える力② 「非言語情報」	宮崎
10	きく力① 「質問力とオーディエンス力」	宮崎
11	きく力② 「受容的態度とラポール形成」	宮崎
12	医療面接総論	宮崎
13	医療面接演習①	宮崎
14	医療面接演習②	宮崎
15	チームで問題解決 「情報共有と意思決定」	宮崎

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で、かつコミュニケーション学(手話)の素点も6割以上で単位修得。評定は両方の素点の平均。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

## コミュニケーション学

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	前期	単位数	2
担当	布上 佳世	時間数	15/45	回数	8/23	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

言語的又は非言語的な手段により、良好な対人関係を築くことができるよう学習する。

- ①手話で自己紹介が実施できる
- ②手話で基礎的なコミュニケーションをとることができる

回数	講義内容	備考
1	手話の基礎知識 実技：身振り、指文字	
2	聴覚障がい者のコミュニケーションについて 実技：名前、住所、数字(年齢、生年月日)	
3	ろう教育・ろう運動 実技：あいさつ、しゅみ(具体的表現)	
4	聴覚障がい者の基礎知識 実技：疑問詞	
5	ろう者の講演 「聴覚障がい者の生活」	
6	合理的配慮 実技：会話、医療に関する手話	
7	手話通訳派遣制度 実技：会話を広げよう	
8	聞こえない人と交流	

## 【成績評価方法】

<内容> ①平常点 ②実技試験 ③レポート

<基準> 合算した素点が6割以上で、かつコミュニケーション学の素点も6割以上で単位修得。評定は両方の素点の平均。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
手話を学ぼう 手話で話そう	社会福祉法人全国手話研修センター	

【科目名】

## 解剖学 I (前期)

令和 4 年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1 年	開講期間	通期	単位数	4
担当	早崎 華	時間数	60/120	回数	30/60	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

骨関節系、筋系、神経系などについて系統解剖学的に人体の構造、各器官及び組織の形態を学習する。

- ①骨の構造と機能について説明できる
- ②関節の構造と機能について説明できる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	解剖学総論	16	下肢の骨(寛骨)と骨盤
2	骨学総論①	17	下肢の骨(大腿骨と膝蓋骨)
3	骨学総論②	18	下肢の骨(下腿骨と足の骨)
4	骨格全体の観察	19	下肢の関節①
5	脊柱①	20	下肢の関節②
6	脊柱②	21	筋学総論①
7	脊柱③	22	筋学総論②
8	胸郭の骨	23	神経総論①
9	関節総論	24	神経総論②
10	脊柱と胸郭の関節①	25	骨格筋と末梢神経
11	脊柱と胸郭の関節②	26	腕神経叢
12	上肢の骨(肩甲骨・上腕骨)	27	上肢帯から上腕骨への筋
13	上肢の骨(前腕骨・手の骨)	28	上腕の筋
14	上肢の関節①	29	前腕前面の筋
15	上肢の関節②	30	前腕後面の筋

## 【成績評価方法】

<内容>①平常点②筆記試験

<基準>前後期共に素点が6割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果6割以下であった場合、後期本試験の素点を合算して120点以上あれば単位修得。評定は前後期の平均。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
PT・OT・STのための解剖学	渡辺正仁	廣川書店

【科目名】

## 解剖学 I (後期)

令和 4 年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1 年	開講期間	通期	単位数	4
担当	早崎 華	時間数	60/120	回数	30/60	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

骨関節系、筋系、神経系などについて系統解剖学的に人体の構造、各器官及び組織の形態を学習する。

①骨格筋の構造と機能について説明できる

②神経(末梢・中枢神経系)の構造と機能について説明できる

回数	講義内容	回数	講義内容
31	手の筋	46	間脳①
32	体幹から上肢への筋	47	間脳②
33	腰神経叢・仙骨神経叢	48	脳幹①
34	下肢(外旋六筋と殿部の筋)	49	脳幹②
35	下肢(大腿の筋)	50	小脳と辺縁系①
36	下肢(下腿の筋と足の筋)	51	小脳と辺縁系②
37	固有背筋	52	神経の伝導路
38	腹部の筋と胸郭の筋	53	神経の伝導路(上行性伝導路)
39	頸神経叢と頸部の筋	54	神経の伝導路(下行性伝導路)
40	頸神経叢と頸部の筋	55	脳神経①
41	脳の分類と大脳①	56	脳神経②
42	脳の分類と大脳②	57	顔面の筋肉
43	脳の発生と髄膜と脳脊髄液	58	脳神経③
44	脳の血管①	59	頭蓋骨①
45	脳の血管②	60	頭蓋骨②

## 【成績評価方法】

<内容>①平常点②筆記試験

<基準>前後期共に素点が 6 割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果 6 割以下であった場合、後期本試験の素点を合算して 120 点以上あれば単位修得。評定は前後期の平均。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
PT・OT・ST のための解剖学	渡辺正仁	廣川書店



【科目名】

## 解剖学Ⅱ(前期)

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	通期	単位数	2
担当	前田 裕子	時間数	30/60	回数	15/30	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

循環器系・リンパ系・消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系・感覚器系などについて系統解剖学的に人体の構造、各器官及び組織の形態を学習する。

- ①循環器(心臓・血管など)の構造と機能について説明できる  
 ②消化器(胃・腸・肝臓など)の構造と機能について説明できる

回数	講義内容	備考
1	細胞の構造(～細胞膜)	
2	細胞膜機能、細胞分裂	
3	組織	
4	心臓の構造	
5	刺激伝導系、血管構造、血液、肺循環	
6	体循環、腹大動脈壁側枝	
7	腹大動脈～内腸管動脈	
8	下肢の動脈、上大静脈系～下大静脈壁側枝	
9	門脈、下肢静脈、胎生期循環、リンパ本幹、リンパ節	
10	局所リンパ節、胸腺、脾臓、消化器系	
11	唾液腺、歯、舌、扁桃	
12	咽頭	
13	小腸～盲腸	
14	大腸、排便の仕組み、肝(肝区域)	
15	肝小葉、胆道、膵、腹膜	

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験

<基準>前後期共に素点が6割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果6割以下であった場合、前期本試験と比較して良い方の素点を採用し、その点と後期本試験の素点を合算して120点以上あれば単位修得。評価は前後期の平均。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
日本人体解剖学 下巻 改訂20版	金子丑之介	南山堂
ネッター解剖学アトラス	相磯貞和	南江堂

【科目名】

## 解剖学Ⅱ(後期)

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	通期	単位数	2
担当	前田 裕子	時間数	30/60	回数	15/30	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

循環器系・リンパ系・消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系・感覚器系などについて系統解剖学的に人体の構造、各器官及び組織の形態を学習する。

①呼吸器(気管支・肺など)の構造と機能について説明できる

②その他の内臓器(内分泌器・泌尿器・生殖器・感覚器)の構造と機能について説明できる

回数	講義内容	備考
1	呼吸器(鼻、喉頭)	
2	呼吸器(肺、胸膜、呼吸)、腎の外形	
3	腎の構造と機能	
4	pHの調節、ビタミンDの活性化、膀胱、尿道、精子の発生	
5	射精管、前立腺、精嚢、カウパー腺、卵巣、卵子の発生	
6	卵子の分裂、黄体、卵管、子宮の構造、月経周期、精子の発生、陰嚢、付属器官	
7	膣、外陰部、会陰、ヒトの発生、陰茎、卵巣、卵子の発生	
8	胎盤、卵管、子宮、月経周期、膣、内分泌(下垂体前葉成長ホルモン)	
9	外陰部、会陰、ヒトの発生、下垂体前葉・後葉、松果体、甲状腺	
10	血中Ca調節ホルモン、副腎皮質・髄質、下垂体、松果体	
11	内分泌:甲状腺、副腎皮質ホルモン、上皮小体など	
12	副腎皮質、骨髄ホルモン、皮膚、眼球外膜、脈絡膜、表皮の構造	
13	皮膚の構造、体性感覚、眼の構造、視細胞、眼筋など	
14	耳の構造(膜迷路)、眼(毛様体、虹彩、網膜)、眼筋、眼瞼	
15	耳(蝸牛管、平衡感覚、聴覚)、ウィルス(DVD)	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>前後期共に素点が6割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果6割以下であった場合、前期本試験と比較して良い方の素点を採用し、その点と後期本試験の素点を合算して120点以上あれば単位修得。評価は前後期の平均。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
日本人体解剖学 下巻 改訂20版	金子丑之介	南山堂
ネッター解剖学アトラス	相磯貞和	南江堂

【科目名】

## 生理学 I

令和 4 年度

						実務教員科目	○
分野	専門基礎	配当年次	1 年	開講期間	通年	単位数	2
担当	山本 知子	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
細胞・筋・神経など人体の各生理機能を、講義・生理学演習を通じて、その基礎的内容について学習する。 ①細胞の構造と機能について説明できる ②シナプス伝達の機能について説明できる ③運動器の機能について説明できる							
回数	講義内容						備考
1・2	一般生理、細胞機能の基礎①(細胞の環境、人体構成物質)						
3・4	細胞機能の基礎②(細胞の構造と機能、細胞膜を通過する物質の移動)						
5・6	細胞機能の基礎③(細胞機能調節のメカニズム、受容体、細胞内シグナル)						
7・8	細胞の興奮と伝導①(興奮、細胞膜の電気的性質、活動電位発生時の細胞膜イオン透過性の変化、薬物効果、パッチクランプ、Patch)						
9・10	細胞の興奮と伝導②(活動電位の伝導、興奮伝導に影響を及ぼす要因、神経線維の分類)						
11・12	細胞の興奮と伝導③(神経軸索髄鞘の変性、軸索輸送)						
13・14	シナプス伝達①(シナプス、シナプス遅延、神経伝達物質の量子的放出、神経伝達物質)						
15・16	シナプス伝達②(神経伝達物質受容体、神経回路網、シナプスの可塑性、神経の成長と変性)						
17・18	筋肉の収縮①(骨格筋の構造、骨格筋・心筋・平滑筋、筋収縮の分子機構)						
19・20	筋肉の収縮②(興奮収縮連関、骨格筋の力学的性質)						
21・22	運動系①(運動制御の概念、固有感覚、脊髄、脳幹)						
23・24	運動系②(大脳皮質、大脳基底核、小脳)						
25・26	運動の生理①						
27	運動の生理②						
28・29・30	運動の生理③						

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①平常点②筆記試験

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
生理学テキスト	大地陸男	文光堂

【科目名】

## 生理学Ⅱ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	3
担当	竹村 京子	時間数	40/75	回数	20/38	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

血液・脳の統合機能・呼吸・腎臓・感覚・体温・自律神経系などの人体の各生理機能の基礎知識を理解する。また、生理学演習(動物演習・脳波演習)では、中枢神経系の機能や脳波の基礎知識を学習する。

- ①中枢神経系(感覚系・自律神経系含む)の機能を説明できる
- ②呼吸器系の機能を説明できる
- ③腎機能について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	血液①:組成、赤血球・白血球・血漿蛋白の機能	
3・4	血液②:生体防御、血液型、血小板、血液凝固	
5・6	脳の統合機能:大脳皮質の構造、機能局在、連合野の機能と障害、言語野と失語症、本能と情動、学習、記憶	
7・8	呼吸:呼吸器の構造・機能、呼吸運動、肺気量、死腔、呼吸力学	
9・10	呼吸:肺のガス交換、換気血流の不均等、酸塩基平衡、呼吸運動の調節、異常呼吸パターン	
11・12	感覚:感覚の分類、体性感覚(受容器、一般性質、皮膚分節、伝導路)、嗅覚・味覚の構造と機能	
13・14	感覚(視覚):眼球の構造、遠近調節と屈折異常、視細胞と視物質、視覚伝導路と視野の欠損、視野、外眼筋	
15・16	腎臓:構造、ネフロン、糸球体と尿細管の機能、排尿反射、クリアランス、バソプレシンとアルドステロンの作用、	
17・18	体温調節:産熱と放熱、体温の分布と日内変動、体温調節のメカニズム、発熱と解熱の機序 自律神経系:構成と機能、両神経系の走行の特徴、刺激伝達物質と受容体、カテコラミンの作用	
19・20	聴覚・平衡覚:構造と機能	
21・22 23	酸塩基平衡	
24・25 26	生理学演習:ヒトの脳波の測定(自発脳波の導出、個人差、 $\alpha$ ブロッキング、音楽刺激による脳波変化、脳波の発生機序、睡眠の脳波)	
27・28	全項目の重点まとめ(演習問題を含めて)	

## 【成績評価方法】

<内容>①平常点②筆記試験

<基準>竹村講師・種村講師の試験で、それぞれ6割以上で単位修得。評定はその平均を素点とする。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
生理学テキスト 【参考図書】人体の構造と機能 第4版	大地陸男 エレイン N, マリーブ	文光堂 医学書院

【科目名】

## 生理学Ⅱ

令和4年度

実務教員科目 ○

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	3
担当	種村 麻里	時間数	30/75	回数	15/38	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

血液・脳の統合機能・呼吸・腎臓・感覚・体温・自律神経系などの人体の各生理機能の基礎知識を理解する。また、生理学演習(動物演習・脳波演習)では、中枢神経系の機能や脳波の基礎知識を学習する。

- ①循環器系の機能について説明できる
- ②消化器系の機能について説明できる
- ③内分泌系の機能について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	循環の生理① 循環の基礎、心臓の構造 循環の生理② 興奮伝導系、心電図、心臓ポンプ機能	
3・4	循環の生理③ 血管の構造と働き、血圧 循環の生理④ リンパ管系、循環の調節、局所の循環	
5・6	消化と吸収① 消化管の構造、口腔・胃内の消化 消化と吸収② 胃液分泌の調節、小腸の運動、膵液・胆汁の分泌	
7・8	消化と吸収③ 腸液の分泌、吸収、大腸の働き 消化と吸収④ 排便、肝臓の働き 栄養と代謝① 三大栄養素の特徴、糖質の働き	
9・10	栄養と代謝② 内呼吸、脂質・蛋白質の働きと代謝 栄養と代謝③ ビタミン、無機質、基礎代謝量とエネルギー代謝 内分泌系の機能① 内分泌の定義、ホルモンの化学的組織と作用機序	
11・12	内分泌系の機能② ホルモンの分泌・調節、視床下部・下垂体前葉ホルモン 内分泌系の機能③ 下垂体後葉ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモンとカルシトニン、膵臓のホルモン、副腎皮質のホルモンとレニン・アンジオテンシン系	
13・14	内分泌系の機能④ 副腎髄質のホルモン、生殖(減数分裂、性分化、第二次性徴) 内分泌系の機能⑤ 精巣のホルモンと精子の形成、卵巣のホルモンと卵子の成熟	
15・16	内分泌系の機能⑥ 女性の性周期、妊娠と分娩、その他のホルモン、総復習プリント	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>竹村講師・種村講師の試験で、それぞれ6割以上で単位修得。評定はその平均を素点とする。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
シンプル生理学 第8版	貴邑 富久子	南江堂

【科目名】

## 生理学Ⅱ

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	3
担当	中原 英博	時間数	5/75	回数	3/38	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
<p>血液・脳の統合機能・呼吸・腎臓・感覚・体温・自律神経系などの人体の各生理機能の基礎知識を理解する。  また、生理学演習(動物演習・脳波演習)では、中枢神経系の機能や脳波の基礎知識を学習する。</p> <p>①有酸素運動の方法について説明できる  ②運動負荷に対する心応答について説明できる</p>							
回数	講義内容						備考
1・2	運動生理学(講義) 生活習慣病とその誘発要因、有酸素運動(強度、頻度、持続時間)						
3・4	運動生理学(演習) 運動時の心拍測定:様々な運動またはメンタルストレス時の心拍数測定						

## 【成績評価方法】

本授業は生理学Ⅱの評定素点に関わらない。  
出席数は生理学Ⅱに計上される。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

## 基礎運動学 I

令和 4 年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1 年	開講期間	後期	単位数	2
担当	中谷 秀美	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

運動学の学問体系とその基礎を学ぶとともに、下肢の運動器を中心に運動学・運動力学の視点からヒトの運動について理解を深める。

- ①下肢の関節運動のメカニズムについて説明できる
- ②正常歩行のメカニズムについて説明できる
- ③姿勢制御システムについて説明できる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動学総論	16	膝関節の運動学Ⅵ
2	運動力学Ⅰ	17	足関節の運動学Ⅰ
3	運動力学Ⅱ	18	足関節の運動学Ⅱ
4	運動学各論	19	足関節の運動学Ⅲ
5	股関節の運動学Ⅰ	20	足関節の運動学Ⅳ
6	股関節の運動学Ⅱ	21	足関節の運動学Ⅴ
7	股関節の運動学Ⅲ	22	足関節の運動学Ⅵ
8	股関節の運動学Ⅳ	23	足関節の運動学Ⅶ
9	股関節の運動学Ⅴ	24	歩行Ⅰ
10	股関節の運動学Ⅵ	25	歩行Ⅱ
11	膝関節の運動学Ⅰ	26	歩行Ⅲ
12	膝関節の運動学Ⅱ	27	歩行Ⅳ
13	膝関節の運動学Ⅲ	28	歩行Ⅴ
14	膝関節の運動学Ⅳ	29	運動制御
15	膝関節の運動学Ⅴ	30	静力学

## 【成績評価方法】

<内容>①小テスト②筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
基礎運動学 第6版補訂 筋骨格系のキネシオロジー	中村隆一 嶋田智明 監訳	医歯薬出版 医歯薬出版

【科目名】

## 基礎運動学Ⅱ

令和4年度

実務教員科目 ○

分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	2
担当	中谷 秀美	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

上肢・体幹・頭頸部の運動器を中心に運動学・運動力学の視点からヒトの運動について理解を深める。また、ヒトが運動を学び習熟していく過程についても学習する。

- ①上肢の関節運動のメカニズムについて説明できる
- ②体幹の関節運動のメカニズムについて説明できる
- ③異常歩行の種類と特徴について説明できる
- ④運動学習の過程とそのモデルについて説明できる

回数	講義内容	備考	回数	講義内容	備考
1	総論 上肢		16	手についてまとめ	
2	肩甲帯の運動		17	手についてまとめ	
3	上肢帯と肩甲帯の筋とその活動		18	体幹	
4	肩甲上腕関節の運動		19	頭部・頸椎の運動	
5	肩甲上腕関節の筋とその活動		20	胸椎の運動	
6	肩複合体まとめ		21	腰椎・仙椎の運動	
7	肘(腕尺・腕橈・上橈尺関節)の運動		22	体幹の筋とその活動	
8	上腕の筋とその活動		23	体幹まとめ	
9	肘のまとめ		24	眼球と顔面、正常歩行の復習	
10	手関節の運動		25	咀嚼と呼吸、正常歩行の復習、 レクチャー	
11	手関節の筋とその活動		26	異常歩行①、レクチャー	
12	手関節のまとめ		27	異常歩行②、正常歩行自習	
13	手指		28	異常歩行③、自習	
14	手指の関節の運動		29	運動学習①	
15	手指の筋とその活動		30	運動学習②、折り紙にて、松葉杖を通して	

## 【成績評価方法】

<内容>①小テスト②筆記試験

<基準>評定素点の割合は小テスト2割、筆記試験8割とし、その素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
基礎運動学 第6版補訂 筋骨格系のキネシオロジー	中村隆一 嶋田智明 監訳	医歯薬出版 医歯薬出版



【科目名】

## 人間発達学

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	前期	単位数	1
担当	新田 章貴	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

人間に対する理解の基礎として、ライフステージごとの身体と運動機能の発達、知的・心理的・社会的発達、人格の発達などを学習する。

- ①乳幼児・小児期における運動・精神・言語発達について説明できる
- ②青年期における身体構造・生理機能の変化について説明できる
- ③老年期における身体構造・生理機能の変化について説明できる

回数	講義内容	備考
1	総論：人間発達とは	
2	胎生期・新生児期の発達	
3	乳児期の発達	
4	乳児期の発達（原始反射）	
5	幼児・学童期の発達	
6	青年・成人期の発達	
7	老人期の発達	
8	総復習	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
リハビリテーションのための人間発達学 第3版	大城 昌平	メディカルプレス

【科目名】

## 医学概論

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	前期	単位数	1
担当	畠山 雅行	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

医学の成り立ちや医療者の基本的姿勢、医学対象となる健康・病気概念や病気の成り立ちと基本的な診断・治療について学ぶ。

- ① 医の倫理(患者・対象者の権利、医療者の義務)について説明できる
- ② 健康の定義・概念について説明できる
- ③ 病気成り立ちについて説明できる
- ④ 病気の治療方法について説明できる

回数	講義内容	備考
1	はじめに 第1章:医学をどのようにとらえるか 付章:衛生統計	
2	第1章:医学概論で何を学ぶか、 第2章:医学発達の様	
3	第3章:健康・病気・医学の体系	
4	第4章:病気の原因 第5章:病気による身体の変化	
5	第6章:病気の診断、病気の治療	
6	第7章:病気の治療とリハビリテーション	
7	第8章:病気の予防、	
8	第9章:新しい医療システム 第10章:生命へのアプローチ	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
現代医学概論 第二版	柳澤 信夫	医歯薬出版株式会社

【科目名】

## 内科学

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	通期	単位数	2
担当	栗岡 英行	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

内科学全般を概観し、疾病と障害の成り立ちおよび回復過程等の必要とされる基本的な医学的知識について学習する。

- ①一般的な循環器疾患について説明できる
- ②一般的な呼吸器疾患について説明できる
- ③一般的な消化器疾患について説明できる
- ④一般的な腎・泌尿器疾患について説明できる
- ⑤一般的な血液・自己免疫疾患について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	内科総論	
3・4	診断と検査	
5・6	症候	
7・8	循環器疾患	
9・10	呼吸器疾患	
11・12	消化器疾患	
13・14	肝胆膵疾患	
15・16	血液・造血器疾患	
17・18	代謝性疾患	
19・20	内分泌疾患	
21・22	腎・泌尿器疾患	
23・24	膠原病・アレルギー・免疫不全	
25・26	感染性疾患	
27・28	中毒・環境要因による疾患	
29・30	その他	

## 【成績評価方法】

<内容> ①小テスト②筆記試験

<基準> 前後期共に素点が6割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果6割以下であった場合、後期本試験の素点を合算して120点以上あれば単位修得。評価は前後期の平均。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
なるほどなっとく! 内科学 改訂2版	浅野嘉延	南山堂

【科目名】 神経科学(神経内科学)						令和4年度	
						実務教員科目	○
分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	通期	単位数	2
担当	森下真次、拾尾和彦	時間数	30/45	回数	15/23	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

神経症候学ならびに神経内科、および脳神経外科領域でみられる疾患、障害の基礎的知識を学習する。なお神経科学は、神経内科学(30時間/2年)および脳神経外科学(15時間/2年)により構成される。

- ①一般的な神経症候について説明できる
- ②一般的な神経内科疾患について説明できる

回数	講義内容	備考
1	神経症候学① 意識障害	森下
2	神経症候学② 運動麻痺・錐体路徴候・筋萎縮	森下
3	神経症候学③ 錐体外路徴候・不随意運動	森下
4	神経症候学④ 運動失調	森下
5	神経症候学⑤ 感覚障害	森下
6	神経症候学⑥ 失認・失行	森下
7	神経症候学⑦ 脳神経外科領域の疾患	森下
8	神経疾患各論① 脳血管障害	拾尾
9	神経疾患各論② 認知症	拾尾
10	神経疾患各論③ 脱髄性疾患	拾尾
11	神経疾患各論④ 末梢神経疾患、脊髄疾患	拾尾
12	神経疾患各論⑤ 神経変性疾患①	拾尾
13	神経疾患各論⑥ 神経変性疾患②	拾尾
14	神経疾患各論⑦ 筋疾患	拾尾
15	神経疾患各論⑧ 代謝性疾患、感染症	拾尾

【成績評価方法】

<内容>①平常点②筆記試験  
 <基準>神経内科と脳神経外科それぞれで試験を行い、それぞれの素点が6割以上で単位修得。評定素点の割合は神経内科 2/3、脳神経外科 1/3。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
病気が見える vol.7 脳・神経 第2版		メディックメディア

【科目名】

## 神経科学(脳神経外科学)

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	通期	単位数	2
担当	米澤泰司	時間数	15/45	回数	8/23	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

神経症候学ならびに神経内科、および脳神経外科領域でみられる疾患、障害の基礎的知識を学習する。なお神経科学は、神経内科学(30時間/2年)および脳神経外科学(15時間/2年)により構成される。

- ①一般的な脳血管疾患について説明できる
- ②一般的な脳神経外科疾患について説明できる

回数	講義内容	備考
1	神経系の構造と機能①	
2	神経系の機能と構造②、症候と検査	
3	脳血管障害 虚血性①	
4	脳血管障害 虚血性②	
5	脳血管障害 出血性	
6	頭蓋内圧亢進 水頭症	
7	脳腫瘍	
8	頭部外傷	

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt; ①筆記試験

<基準> 神経内科と脳神経外科それぞれで試験を行い、それぞれの素点が6割以上で単位修得。評定素点の割合は神経内科 2/3、脳神経外科 1/3。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
病気が見える vol.7 脳・神経 第2版		メディックメディア

【科目名】

## 整形外科学

令和4年度

実務教員科目 ○

分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	通期	単位数	2
担当	東山 一郎	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

理学療法に必要な骨関節、神経疾患などの整形外科学的知識を学習する。

- ①骨関節障害の一般的疾患について説明できる
- ②骨関節障害の治療について説明できる

回数	講義内容	備考	回数	講義内容	備考
1	整形外科の基礎① 骨の構造		16	整形外科各論⑥ 末梢神経損傷	
2	整形外科の基礎② 軟骨の構造①		17	整形外科各論⑦ 頸部・頸椎部疾患①	
3	整形外科の基礎③ 軟骨の構造②、筋肉の構造①		18	整形外科各論⑧ 頸部・頸椎部疾患②	
4	整形外科の基礎④ 筋肉の構造②		19	整形外科各論⑨ 胸腰椎部疾患①	
5	整形外科の基礎⑤ 末梢神経の構造		20	整形外科各論⑩ 胸腰椎部疾患②	
6	整形外科の基礎⑥ 関節の変形・拘縮		21	整形外科各論⑪ 肩甲帯部疾患①	
7	整形外科の基礎⑦ 整形外科学診断学		22	整形外科各論⑫ 肩甲帯部疾患②	
8	整形外科の基礎⑧ 整形外科学的治療学		23	整形外科各論⑬ 肘・前腕の疾患①	
9	整形外科の基礎⑨ 整形外科学的外傷学		24	整形外科各論⑭ 肘・前腕の疾患②	
10	整形外科の基礎⑩ スポーツ外傷		25	整形外科各論⑮ 手関節疾患	
11	整形外科各論① 整形外科領域の感染症		26	整形外科各論⑯ 手指疾患	
12	整形外科各論② リウマチ性疾患		27	整形外科各論⑰ 骨盤・股関節疾患①	
13	整形外科各論③ 代謝性骨疾患		28	整形外科各論⑱ 骨盤・股関節疾患②	
14	整形外科各論④ 骨・軟部腫瘍		29	整形外科各論⑲ 膝関節疾患	
15	整形外科各論⑤ 脳性麻痺		30	整形外科各論⑳ 足関節・足疾患	

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験

&lt;基準&gt;前後期共に素点が6割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果6割以下であった場合、後期本試験の素点を合算して120点以上あれば単位修得。評価は前後期の平均。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
標準整形外科学 第14版	鳥巢 岳彦	医学書院

【科目名】

## 小児科学

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	1
担当	石垣早知子、神原雪子	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

子どもの成長、発達と小児期によくみられる疾患を中心に学習し、小児期における疾患の特徴について学習する。

①小児の障害を引き起こす一般的疾患について説明できる

②小児の障害を引き起こす主な疾患の治療について説明できる

回数	講義内容	備考
1	小児科学概論	石垣
2	新生児未熟児、先天異常、遺伝性疾患 乳幼児健診、予防接種	石垣
3	中枢神経疾患、てんかん、脳性麻痺、筋疾患	石垣
4	感染症、感染対策	石垣
5	消化器疾患、内分泌疾患	石垣
6	精神遅滞、発達障害、自閉症、ADHD、LD、循環器、呼吸器疾患	神原
7	心身症、重心児、医療的ケア、眼科疾患、聴覚障害、小児MRIの見方	神原
8	血液疾患、免疫、アレルギー疾患、腎疾患、腫瘍性疾患、他まとめ	石垣

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版	奈良 勲 監修	医学書院

【科目名】

## 臨床心理学

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	1
担当	西部 美志	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

障害者の心理を理解できるよう正常および異常心理、心理学的検査・カウンセリングについて学習する。

- ①患者・対象者心理について説明できる
- ②臨床心理検査法について説明できる
- ③心理療法およびカウンセリングについて説明できる

回数	講義内容	備考
1	臨床心理学とは(歴史と概観 こころの理解と援助)	
2	心理援助の実際、様々な事例に学ぶ	
3	心理援助の基礎を学ぶ、人格論、フロイト	
4	心理援助の基礎を学ぶⅠ、人格論、ユング、ロジャース、コフト、カーンバーグ、	
5	心理援助の基礎を学ぶⅢ、人格論、マラー、ウニコット	
6	心理援助の基礎を学ぶⅣ、発達論、エリクソン、ピアジェ	
7	心理アセスメントⅠ、アセスメントとは	
8	心理アセスメントⅠ、人格検査	
9	心理アセスメントⅡ、その他の検査	
10	心理アセスメントⅢ、心理テスト実習	
11	心理援助の方法を知る、心理療法とは、クライエント中心療法	
12	心理援助の方法を知るⅡ、精神分析療法	
13	心理援助の方法を知るⅢ、行動療法	
14	心理援助の方法を知るⅣ、その他(パーソナリティ・学習・記憶)、国試対策	
15	まとめ、国試対策	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験(9割)②平常点(1割)

<基準>①②合算の素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
心とかかわる臨床心理 第3版	川瀬正裕 他	ナカニシヤ出版



【科目名】

## 臨床医学Ⅱ

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	後期	単位数	1
担当	良元文弘	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
理学療法士として必要な臨床外科学、特に消毒・救急学に関する外科的知識の基礎について学習する。 ①外科の一般的疾患について説明できる ②外科的治療について説明できる ③消毒法について説明できる							
回数	講義内容						備考
1	・外科の取り扱う範囲 ・外科的基本手技①(消毒と滅菌、注射、全身麻酔、局所麻酔)						遠隔授業
2	・外科的基本手技②(穿刺、ドレナージ、止血法、縫合と結紮、抜糸、植皮術)						遠隔授業
3	・気道確保・輸血						遠隔授業
4	・創傷の治療 ・熱傷の治療						遠隔授業
5	・周術期管理						
6	・消化器症状と病態生理						
7	・消化器疾患の理解						遠隔授業
8	・消化器疾患の検査(画像診断含む)と外科的治療						遠隔授業

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
系統看護学講座 臨床外科看護総論 第11版	矢永 勝彦 / 高橋 則子 編	医学書院

【科目名】

## 臨床医学Ⅲ

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門基礎	配当年次	3年	開講期間	前期	単位数	1
担当	複数講師	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
理学療法士として必要な臨床薬学と医用画像の基礎について学習する。 ①薬剤について説明できる ②薬理作用について説明できる ③医用画像及びデータの診かたについて説明できる							
回数	講義内容						備考
1	薬学						福田 里美
2	薬学						福田 里美
3	レントゲンの見方(一般)、X線発生の原理、骨折の基本事項、X線写真の見方						北崎 真大
4	レントゲンの見方(CT)、原理、症例、解剖図						渡邊 泰生
5	MRIの装置の特徴と見方、原理、臨床、安全教育ビデオ						峯 宏和
6	血液検査データの見方、AST、ALT、LDH、CPK、CRP など 超音波検査について、心臓超音波検査の症例						蜜本 翔伍
7	心電図について、心電図の原理、重篤な不整脈、心電図の症例						蜜本 翔伍
8	超音波画像の見方						旦 尚敏

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①出席点

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

## リハビリテーションⅠ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	1
担当	中谷秀美他	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

リハビリテーションの理念と病気と障害、リハビリテーション医学の体系、及び包括的なリハビリテーション医療の考え方を学習する。また、関連専門職の視点から自立支援、就労支援、地域包括ケアシステム及び他職種連携について学び理解を深める。

- ①医学的リハビリテーションについて説明できる
- ②リハビリテーション医療におけるチーム医療・他職種連携について説明できる
- ③リハビリテーション医療専門職の役割について説明できる

回数	講義内容	備考
1	リハビリテーション、歴史、概念、医学的リハビリテーション、リハビリテーション医学、	中谷
2	ICIDHとICFの違い	中谷
3	職業的リハ、教育的リハ、社会的リハ、障害と病期	中谷
4	SOAP法、クリニカルパス、諸問題 今後のリハビリテーション（透析患者へのリハ、がんリハ、再生医療とリハ、超音波とリハ、ロボットとリハ）	中谷
5	看護師の役割、①看護師の業務内容、②看護師の活躍の場、③チームアプローチについて医師の役割	Nrs
6	作業療法と作業療法士、①作業療法士の役割、②身体障害の作業療法、③精神障害の作業療法、④PTとの協働	OT
7	言語聴覚士の臨床（失語症、嚥下障害）、①失語症のタイプ、症状、②失語症のリハビリの流れ、③失語症患者様への対応ほか	ST
8	医師の役割、リハビリテーション処方、ほか	Dr
9	MSWの役割	MSW
11・12	介護保険・地域包括支援について	訪問看護
13・14	訪問看護について	訪問看護
15	奈良県総合リハビリテーションセンター施設見学、県営福祉パーク見学・体験	校外学習

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第4版		

【科目名】

## リハビリテーションⅡ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	後期	単位数	1
担当	濱中 紀成	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

リハビリテーション医学の概念と、各障害に対するリハビリテーション医療の基本原則を学習する。

- ①リハビリテーション医療の特徴について説明できる
- ②リハビリテーション医療における医学的情報(病理・生理・画像診断含む)について説明できる
- ③リハビリテーション医療で取り扱う身体障害の治療について説明できる

回数	講義内容	備考
1	リハビリテーション医学概論 リハビリテーション評価	
2	画像検査	
3	一般検査	
4	循環機能障害、障害受容、脳性麻痺	
5	切断、パーキンソン病と変性疾患	
6	精神障害、脊髄損傷	
7	CRPS、内部障害	
8	内部障害、腰痛症	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
最新リハビリテーション医学 第3版	米本 恭三監修	医歯薬出版

【科目名】

## 保健医療福祉関係論

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	3年	開講期間	通期	単位数	2
担当	畠山 雅行	時間数	45	回数	23	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

保健・医療・福祉にわたり理学療法士として必要な社会福祉や公衆衛生、及び公的介護保険に関する医療制度などの基本的知識を学習する。

- ①保健・医療・福祉の政策の動向について説明できる
- ②社会保障制度（医療保険制度、介護保険制度など）について説明できる
- ③健康維持、健康増進における理学療法士の役割について説明できる
- ④災害保健における理学療法士の役割について説明できる
- ⑤地域保健および学校保健（特別支援教育など）における理学療法士の役割について説明できる
- ⑥産業保健における理学療法士の役割について説明できる
- ⑦国際支援に関わる基盤について説明できる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	保健医療福祉概論	12	精神保健
2	保健医療福祉総論、グループ分け	13	母子保健
3	グループ活動、健康増進	14	学校保健
4	保健医療福祉の制度と法規	15	環境保健
5	高齢者の健康医療介護	16	環境保健
6	疾病予防と健康管理	17	環境保健、公害
7	地域健康と保健行政	18	主な疾患の予防と治療
8	国際保健医学	19	環境保健
9	メタボリックシンドロームと対策	20	主な疾患の予防、がん検診
10	産業保健	21、22	グループ発表
11	産業保健	23	まとめ

## 【成績評価方法】

<内容>①グループワーク発表②筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
シンプル衛生公衆衛生学	鈴木 庄亮	南江堂

【科目名】

## 理学療法概論

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	1年	開講期間	前期	単位数	2
担当	旦尚敏	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

理学療法について、その全体像が把握できるよう総合的・体系的に学習する。

- ①理学療法の定義について説明できる
- ②理学療法とリハビリテーションの違いについて説明できる
- ③理学療法の過程について説明できる
- ④各病期（急性期、回復期、生活期、介護・終末期）における理学療法の意義や目的について説明できる
- ⑤理学療法士の職域について説明できる

回数	講義内容	備考
1	オリエンテーション、理学療法カリキュラム概要	
2	理学療法士の定義	
3	PT・OT法について①	
4	PT・OT法について②	
5	障害について①(ICIDH)	
6	障害について②(ICF)	
7	二次障害について	
8	廃用症候群について①	
9	廃用症候群について②	
10	廃用症候群について③	
11	理学療法の治療技術について①物理療法	
12	理学療法の治療技術について②物理療法	
13	理学療法の治療技術について③運動療法	
14	理学療法の治療技術について④ADL	
15	理学療法評価と治療	

## 【成績評価方法】

<内容>①出席点②筆記試験

<基準>①15%②85%を合わせて60%以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
理学療法概論(PT・OT ビジュアルテキスト) 第1版	庄本康治	羊土社

【科目名】

## 臨床運動学

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2年	開講期間	通期	単位数	2
担当	久保峰鳴、建内宏重 森公彦、脇田正徳	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
基礎運動学により習得した基礎的知識・技術を踏まえ、身体障害者の運動分析と問題点の理解を中心に学習する。							
①上肢関節の運動機能障害について運動学的に説明できる							
②下肢関節の運動機能障害について運動学的に説明できる							
③体幹関節の運動機能障害について運動学的に説明できる							
回数	講義内容						備考
1・2	総論、臨床運動学とは 障害を運動学的に解釈することについて例を提示しながら解説						久保
3・4	運動学の基礎、臨床運動学の理解に必要な、重心、支持基底面、関節モーメント、疾患特有のアライメントや関節ストレスの例を提示しながら解説						久保
5・6	神経筋機能、臨床運動学の理解に必要な、長さ張力曲線、筋断面積、サイズの原理、筋作用の逆転、反応時間、RFD などについて解説						久保
7・8	姿勢とその障害 立位姿勢の基礎および障害について、運動学的に解説						建内
9・10	歩行とその障害 歩行の基礎および障害について、運動学的に解説						建内
11・12	肩関節の機能とその障害 肩関節の機能および障害について、運動学的に解説						建内
13・14	股関節の機能とその障害 股関節の機能および障害について、運動学的に解説						建内
15・16 17・18	脊柱・体幹の機能とその障害 脊柱・体幹の機能および障害について、運動学的に解説						森
19・20 21・22	足関節・足部・足趾の機能とその障害 足関節・足部・足趾の機能および障害について、運動学的に解説						森
23・24 25・26	膝関節の運動学①・膝の運動学② 膝関節の病態運動学①・膝関節の病態運動学②						脇田
27・28 29・30	中枢神経疾患の運動学①(脳卒中)・②(パーキンソン) 中枢神経疾患の運動学③(失調中)・④(その他)						脇田

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt; ①筆記試験

&lt;基準&gt; 前後期共に素点が6割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果6割以下であった場合、後期本試験の素点を合算して120点以上あれば単位修得。評定は前後期の平均。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
身体運動学-関節の制御機構と筋機構-	市橋則明	メジカルビュー

【科目名】

## 理学療法障害学Ⅰ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	1
担当	宮崎 尚也	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

理学療法で扱う障害の概念や各疾患で起こる障害構造を理解する。

- ①国際障害分類(ICIDH、ICF)について説明できる
- ②理学療法の対象となる身体障害について説明できる
- ③二次障害について説明できる

回数	講義内容	備考
1	障害学総論:障害とリハビリテーション、障害の定義、障害の構造、	
2	ICIDHとICF①: Impairment、Disability、Handicapの捉え方 一次障害と二次障害、廃用症候群、過用症候群、誤用症候群	
3	ICIDHとICF②: ICIDHを用いた障害の把握(演習)、ICFへの変遷、ICFの構造	
4	ICIDHとICF③:ICFのコード分類と評価点、ICFを用いた障害の把握(演習)	
5	障害の心理的側面:障害者の心理、障害の受容、悲哀の仕事、障害受容の段階	
6	能力障害と活動制限:能力障害と活動制限の捉え方、動作の自立度と実用性	
7	機能形態障害と機能障害:器官機能別の異常の捉え方	
8	グループ発表(器官機能別 Impairment)	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		



【科目名】

## 理学療法障害学Ⅱ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	3年	開講期間	通期	単位数	2
担当	複数講師	時間数	45	回数	23	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

理学療法で扱う障害を器官機能別に整理して、その障害構造を学ぶとともに、適応となる理学療法を最新のトピックスをふまえて学習する。

- ①器官・機能別の障害について説明できる
- ②器官・機能障害別の理学療法について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	理学療法総論	柏木宏彦
3・4 5・6	呼吸障害の理学療法、パーキンソン病の理学療法、臨床研究のすすめ 代謝障害の理学療法	松尾善美
7	ウィメンズヘルス領域における理学療法	前原由貴
8・9	骨・関節障害の理学療法	原典子
10・11	脊髄障害の理学療法	片岡愛美
12・13 14・15	呼吸障害の理学療法、パーキンソン病の理学療法、臨床意思決定 慢性腎不全の理学療法	松尾善美
16・17	神経・筋障害の理学療法	植田能茂
18・19	スポーツ障害の理学療法	小柳磨毅
20・21	循環障害の理学療法	河村知範
22・23	脳障害の理学療法	田後裕之

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①出席点

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
歩行を診る観察から始める理学療法実践 PT・OT ビジュアルテキスト 内部障害 理学療法学 第1版	奈良勲 松尾善美	文光堂 羊土社

【科目名】

## 理学療法研究概論

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	3年	開講期間	前期	単位数	1
担当	治部哲也 中谷秀美	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

理学療法における研究活動の位置づけや方法論について系統的に学習する。

- ①理学療法における研究の必要性・意義が説明できる
- ②利益相反について説明できる
- ③研究疑問に応じた研究デザインについて説明できる
- ④研究疑問に基づき、先行研究を検索できる

回数	講義内容	備考
1	EZR を用いた統計解析①	治部
2	EZR を用いた統計解析②	治部
3	EZR を用いた統計解析③	治部
4	研究とは何か/文献検索の方法	中谷
5	研究デザイン	中谷
6	研究計画の立て方とバイアスの考慮	中谷
7	研究倫理	中谷
8	対象を決める・データ入手の方法	中谷

## 【成績評価方法】

<内容>①出席点②研究計画書③筆記試験

<基準>素点6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
最新 理学療法学講座 理学療法研究法	対馬栄輝	医歯薬出版株式会社

【科目名】

## 理学療法管理学

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	3年	開講期間	通期	単位数	2
担当	宮崎尚也 他	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

医療保険制度、介護保険制度を理解し、理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学び、職業倫理を高める態度を養う。

- ①コンプライアンス・法令違反について説明できる
- ②ハラスメントについて説明できる
- ③理学療法の診療報酬または介護報酬などについて説明できる
- ④理学療法実施後の診療記録と書類管理について説明できる
- ⑤理学療法機器の保守点検・安全管理について説明できる
- ⑥臨床教育の方法について説明できる

回数	講義内容	備考
1	総論、理学療法士を取り巻く環境	宮崎尚也
2	病院の分類	宮崎尚也
3	医療機関組織と専門職	宮崎尚也
4	社会保障のしくみ	宮崎尚也
5	医療保険制度	宮崎尚也
6	権利擁護と職業倫理	宮崎尚也
7	教育管理	宮崎尚也
8	診療報酬と病院の収益管理①	東悟
9	診療報酬と病院の収益管理②	東悟
10	業務管理	東悟
11	情報管理	東悟
12	リスク管理①	荒木雄一
13	リスク管理②	荒木雄一
14	医療の質の評価①	荒木雄一
15	医療の質の評価②	荒木雄一

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験

&lt;基準&gt;素点6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

## 理学療法評価総論 I

令和 4 年度

実務教員科目 ○

分野	専門	配当年次	1 年	開講期間	後期	単位数	2
担当	旦 尚敏、新田 章貴	時間数	30/60	回数	15/30	授業方法	実験・実習・実技

## 授業の概要、到達目標

理学療法における評価の概念や方法論などを総合的・系統的に学習する。また、関節運動の評価と関節可動域の測定技術について学習する。なお、理学療法評価総論 I は、理学療法評価総論 I（総論：30 時間）と理学療法評価総論 I（ROM：30 時間）で構成される。

- ①理学療法評価の目的と評価方法について説明できる
- ②理学療法評価に基づく治療計画立案までのプロセスが説明できる
- ③バイタルサインの測定が実施できる
- ④形態測定が実施できる

回数	講義内容	備考
1	①理学療法評価とは（定義・目的など）	
2	②理学療法評価の過程、情報収集	
3	③情報収集（直接的・間接的手段）、	
4	④検査測定（評価）の具体的手順	
5	⑤目標設定の具体的方法	
6	⑥検査・測定 Vital signs（総論、脈拍①）	
7	⑦検査・測定 Vital signs（脈拍②）	
8	⑧検査・測定 Vital signs（血圧①）	
9	⑨検査・測定 Vital signs（血圧②）	
10	⑩検査・測定 Vital signs（呼吸）	
11	⑪検査・測定 形態測定（総論、周径①）	
12	⑫検査・測定 形態測定（周径②）	
13	⑬検査・測定 形態測定（四肢長①）	
14	⑭検査・測定 形態測定（四肢長②）	
15	⑮検査・測定 筋力測定（粗大筋力）	

## 【成績評価方法】

<内容> ①筆記試験②実技試験

<基準> 評価総論 I と評価総論 I\_ROM それぞれで試験を行い、それぞれの素点が 6 割以上で単位修得。評定素点はそれぞれの平均。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
理学療法 評価学 第 6 版		金原出版

【科目名】

## 理学療法評価総論Ⅱ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	2
担当	高井 悠二	時間数	60	回数	30	授業方法	実験・実習・実技

## 授業の概要、到達目標

理学療法評価法のうち筋力テストの概念や基本的な知識、その技術を習得する。

①筋力の評価方法について説明できる

②筋力低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	総論①	16	肩関節外旋、肩関節内旋、肘関節屈曲
2	総論②、股関節屈曲	17	肘関節伸展、前腕回外
3	股関節屈曲・外転、膝屈曲位での外旋、股関節伸展①	18	前腕回内、手関節屈曲、手関節伸展
4	股関節伸展②	19	指のMP関節屈曲、指のPIP・DIP屈曲、指のMP伸展
5	股関節外転、股関節屈曲位からの外転	20	指外転、指内転、母指MP・IP関節屈曲
6	股関節内転、股関節外旋	21	母指MP・IP伸展、母指外転、母指内転
7	股関節内旋、膝関節屈曲	22	対立運動：母指を小指へ、頭部伸展、頸部伸展、頸部複合伸展
8	膝関節伸展、足関節底屈	23	頭部屈曲、頸部屈曲、頸部複合屈曲、頸部回旋
9	足関節背屈ならびに内返し、足の内返し、足の底屈を伴う外返し	24	体幹伸展、骨盤挙上、体幹屈曲
10	母趾と足趾のMP屈曲、母趾と足趾のPIP・DIP屈曲、母趾と足趾のMP・IP伸展	25	体幹回旋、安静吸気運動、強制呼気運動
11	肩甲骨外転と上方回旋、肩甲骨挙上	26	脳神経支配筋のテスト、外眼筋、顔面と眼瞼の筋、鼻の筋
12	肩甲骨内転、肩甲骨下制と内転	27	鼻の筋、口と顔面の諸筋、咀嚼筋、舌筋
13	肩甲骨内転と下方回旋、肩甲骨下制、肩関節屈曲	28	口蓋筋、咽頭筋、嚥下に関する筋
14	肩関節伸展、肩関節外転	29	MMT総括
15	肩関節水平外転、肩関節水平内転	30	脳神経支配筋のテスト

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験②実技試験

&lt;基準&gt;①②合算し、6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
新・徒手筋力検査法 原著第10版	Helen J. Hislop	協同医書出版

【科目名】

## 理学療法評価各論 I

令和 4 年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	旦 尚敏	時間数	30	回数	15	授業方法	実験・実習・実技

## 授業の概要、到達目標

理学療法に関連した検査・測定を中心に、各種疾患に伴う障害の評価が行えるように学習する。

- ①疼痛の程度と関連要因を把握する評価が実施できる
- ②反射異常の程度と関連要因を把握する評価が実施できる
- ③運動麻痺の程度と関連要因を把握する評価が実施できる
- ④感覚異常の程度と関連要因を把握する評価が実施できる
- ⑤意識・精神障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる

回数	講義内容	備考
1	理学療法検査・測定における要素（尺度、感度、特異度、尤度比、カットオフ値など）	
2	痛みの診かたⅠ：痛みの分類、痛みの検査、評価スケール（VAS, NRS, FRS など）	
3	痛みの診かたⅡ（実技含む）：実技演習、検査結果の解釈（原因追究について） 反射の診かたⅠ（実技含む）：反射弓、生理機構、深部反射と検査時の注意事項など	
4	反射の診かたⅡ（実技含む）：主要腱反射について（実技演習）、判定法について	
5	反射の診かたⅢ（実技含む）：障害の捉え方、非主要腱反射について	
6	反射の診かたⅣ（実技含む）：表在反射・病的反射①	
7	反射の診かたⅤ（実技含む）：病的反射②、まとめ 筋緊張の診かたⅠ：筋緊張の異常、評価尺度など	
8	筋緊張の診かたⅡ（実技含む）：筋緊張の検査、評価スケール（MAS など）	
9	運動麻痺の診かたⅠ：運動麻痺の分類、運動麻痺の回復、軽い片麻痺の診かた	
10	運動麻痺の診かたⅡ（実技含む）：運動麻痺の検査（BRST）	
11	運動麻痺の診かたⅢ（実技含む）：他の評価スケール（12 段階片麻痺回復グレード法等）	
12	感覚の診かたⅠ：感覚の分類、感覚検査の基本、皮膚分節と末梢感覚神経支配	
13	感覚の診かたⅡ（実技含む）：感覚検査の結果記載、感覚検査（実技演習）	
14	感覚の診かたⅢ（実技含む）：感覚検査（実技演習）	
15	意識・精神機能の診かた	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験②実技試験

<基準>①②合算し、素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版 理学療法評価学 改訂第 6 版	田崎 義昭 松澤 正	南山堂 金原出版

【科目名】

## 理学療法評価各論Ⅱ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	後期	単位数	1
担当	旦尚敏	時間数	30	回数	15	授業方法	実験・実習・実技

## 授業の概要、到達目標

理学療法に関連した検査・測定を中心に、各種疾患に伴う障害の評価が行えるように学習する。

- ①脳神経障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる
- ②不随意運動の程度と関連要因を把握する評価が実施できる
- ③高次脳機能障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる
- ④整形外科的検査法が実施できる
- ⑤協調運動障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる
- ⑥バランス機能障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる
- (⑦関節機能障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる)

回数	講義内容	備考
1	脳神経の診かたⅠ	
2	脳神経の診かたⅡ	
3	脳神経の診かたⅢ	
4	脳神経の診かたⅣ	
5	高次脳機能障害の診かたⅠ	
6	高次脳機能障害の診かたⅡ	
7	不随意運動の診かた	
8	整形外科的検査法Ⅰ	
9	整形外科的検査法Ⅱ	
10	協調性の診かたⅠ	
11	協調性の診かたⅡ	
12	バランス機能の診かたⅠ	
13	バランス機能の診かたⅡ	
14	脳神経の診かたⅤ	
15	整形外科的検査法Ⅲ	

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版 理学療法評価学 改訂第6版	田崎 義昭 著 松澤 正 他著	南山堂 金原出版

【科目名】

## 理学療法評価演習

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	後期	単位数	1
担当	旦尚敏 大原佳孝 久野剛史 東康博	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

各種障害に対する理学療法評価の知識・技術の統合が図れるように、医用画像の評価を含めて総合的に学習する。

- ①骨関節障害にかかる基本的な理学療法評価が実施できる
- ②脳障害にかかる基本的な理学療法評価が実施できる
- ③神経・筋障害にかかる基本的な理学療法評価が実施できる
- ④脊髄障害にかかる基本的な理学療法評価が実施できる
- ⑤内部障害にかかる基本的な理学療法評価が実施できる
- ⑥医用画像の評価について説明できる

回数	講義内容	備考
1	理学療法における臨床判断(機能障害に対する理学療法推論過程)	旦
2	パーキンソン病の障害像について	大原佳孝
3	パーキンソン病患者に対する評価(Bottom up)	
4	パーキンソン病患者の動作特性	
5	パーキンソン病患者に対する評価(Top down)	
6	運動器疾患の理学療法評価演習(肩関節周囲炎①)	
7	運動器疾患の理学療法評価演習(肩関節周囲炎②)	久野剛史
8	運動器疾患の理学療法評価演習(大腿骨頸部骨折①)	
9	運動器疾患の理学療法評価演習(大腿骨頸部骨折②)	
10	運動器疾患の理学療法評価演習(人工膝関節①)	
11	運動器疾患の理学療法評価演習(人工膝関節②)	
12	脳梗塞片麻痺患者の動作観察・評価方法①	東康博
13	脳梗塞片麻痺患者の動作観察・評価方法②	
14	脳梗塞片麻痺患者の統合と解釈、問題点の抽出①	
15	脳梗塞片麻痺患者の統合と解釈、問題点の抽出②	

## 【成績評価方法】

<内容>①レポート課題(骨関節 40%、脳卒中・パーキンソン病各 30%)

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
配布資料		



【科目名】

## 動作分析学Ⅰ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	1
担当	宮崎尚也	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

基本的動作能力を適切に捉えるために、目視による観察と基本的動作・応用的動作の画像評価、及び動作解析機器のデータを基にした分析について学び、動作の観察・記録・分析の方法を学習する。

①基本的動作の分析方法について説明できる

②健常な基本的動作を観察して記録できる

回数	講義内容	備考
1	総論、動作分析プロセス(1.動作観察 2.運動解析 3.動作分析)	
2	運動学的視点、運動力学的視点①(筋力、重力、床反力、支持基底面)	
3	運動力学的視点②(慣性力、摩擦力、剛体と分節、回転モーメント、てこ)、実用性と自立性、動作環境	
4	寝返り動作①(正常動作パターン、相区分、運動学的特徴、運動力学的特徴)	
5	寝返り動作②(動作観察および分析演習)	
6	起き上がり動作①(正常動作パターン、相区分、運動学的特徴、運動力学的特徴)	
7	起き上がり動作②(動作観察および分析演習)	
8	立ち上がり動作①(正常動作パターン、相区分、運動学的特徴、運動力学的特徴)	
9	立ち上がり動作②(正常動作パターン、相区分、運動学的特徴、運動力学的特徴)	
10	立ち上がり動作③(動作観察および分析演習)	
11	歩行動作①(正常動作パターン、相区分、運動学的特徴、運動力学的特徴)	
12	歩行動作②(動作観察および分析演習)	
13	歩行動作③(代表的な逸脱運動)	
14	段昇降動作(正常動作パターン、相区分、運動学的特徴、運動力学的特徴)	
15	車椅子駆動動作(正常動作パターン、相区分、運動学的特徴、運動力学的特徴)	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

## 動作分析学Ⅱ

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	3年	開講期間	前期	単位数	1
担当	宮崎尚也、複数講師	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
動作障害を評価するうえで重要な位置を占める運動・動作分析について、目視による観察・3次元動作解析・表面筋電図等の動作解析にかかる画像または動画を使い、多角的に動作を分析できるよう学習する。 ①動作解析機器の使い方について説明できる ②疾患特異的な基本的動作の異常を観察して記録できる							
回数	講義内容						担当
1	表面筋電計を用いた動作分析						宮崎尚也
2	表面筋電計を用いた動作分析【演習】						宮崎尚也
3	ビデオカメラを用いた動作分析						宮崎尚也
4	動作分析の基礎						大原佳孝
5	臨床での動作分析の実際-症例を通じて-①						大原佳孝
6	臨床での動作分析の実際-症例を通じて-②						大原佳孝
7	臨床での動作分析の実際-症例を通じて-③						大原佳孝
8	動作分析(初期評価～プログラム①)						黒田未貴
9	動作分析(再評価②)						黒田未貴
10	動作分析(初期評価～プログラム立案③)						黒田未貴
11	動作分析(再評価、治療④)						黒田未貴
12	異常動作と生活①						黒岡貞治
13	異常動作と生活②						黒岡貞治
14	異常動作と福祉用具						黒岡貞治
15	異常動作と環境設定						黒岡貞治

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①レポート課題

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
講義資料		

【科目名】

## 基礎運動療法学(前期)

令和4年度

実務教員科目 ○

分野	専門	配当年次	1年	開講期間	通期	単位数	3
担当	北林 佑介	時間数	45/75	回数	19/38	授業方法	実験・実習・実技

## 授業の概要、到達目標

運動療法の基盤的技術である触察技術について実技を通じて学習する。前期は骨の触察と下肢の筋について、後期は下肢・上肢筋・体幹の触察について学ぶ。

①骨のランドマークを触れることができる

②下肢筋について他筋と間違えることなく触れることができる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	総論	11	大腿部:大腿骨
2	上腕部:上腕骨	12	膝関節周辺 大腿骨 膝蓋骨
3	前腕部:尺骨・橈骨	13	膝関節周辺 脛骨 腓骨
4	胸部・肩甲帯周囲:肩甲骨	14	足関節および足部周辺
5	胸部・肩甲帯周囲:鎖骨・胸骨	15	足関節および足部周辺
6	手関節・手部:手根骨	16	下肢の骨触診復習
7	手関節・手部:手根骨	17	膝関節に関わる筋
8	手関節・手部:中手骨・指骨	18	股関節に関わる筋
9	上肢の骨触診復習	19	膝関節に関わる筋
10	骨盤		

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt; ①実技試験

<基準> ①前後期共に素点が6割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果6割以下であった場合、後期本試験の素点を合算して120点以上あれば単位修得。評定は前後期の平均。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢・下肢体幹) 改訂第2版		Medical View

【科目名】

## 基礎運動療法学(後期)

令和4年度

実務教員科目 ○

分野	専門	配当年次	1年	開講期間	通期	単位数	3
担当	北林 佑介	時間数	30/75	回数	19/38	授業方法	実験・実習・実技

## 授業の概要、到達目標

運動療法の基盤的技術である触察技術について実技を通じて学習する。前期は骨の触察と下肢の筋について、後期は下肢・上肢筋・体幹の触察について学ぶ。

①上肢筋について他筋と間違えることなく触れることができる

②体幹の骨ランドマークを触れることができる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	足関節および足部に関わる筋	11	肘関節複合体に関連する靭帯
2	足関節および足部に関わる筋	12	手関節および手指に関わる筋
3	下肢の靭帯	13	手関節および手指に関わる筋
4	下肢の筋触診復習	14	中手指節関節に関連する靭帯
5	肩甲上腕関節に関わる筋	15	上肢の筋触診復習
6	肩甲胸郭関節に関わる筋	16	胸郭に関連する諸組織
7	肩甲胸郭関節に関わる筋	17	胸郭に関連する諸組織
8	肩関節複合体に関連する靭帯	18	脊柱に関連する諸組織
9	肘関節に関わる筋	19	脊柱に関連する諸組織
10	肘関節に関わる筋		

## 【成績評価方法】

<内容> ①実技試験

<基準> 前後期共に素点が6割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果6割以下であった場合、後期本試験の素点を合算して120点以上あれば単位修得。評定は前後期の平均。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢・下肢体幹) 改訂第2版	林 典雄	Medical View

【科目名】

## 運動療法学 I

令和 4 年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	1 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	中谷秀美	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

各種の障害に対して適切な運動療法が行えるよう、基礎的知識について学習する。

- ①関節可動域制限に対する運動療法について説明できる
- ②筋力低下に対する運動療法について説明できる
- ③筋持久力低下に対する運動療法について説明できる
- ④全身持久力低下に対する運動療法について説明できる
- ⑤協調運動障害に対する運動療法について説明できる
- ⑥筋緊張異常に対する運動療法について説明できる
- ⑦治療体操について説明できる

回数	講義内容	備考
1	総論	
2	関節内運動①	
3	関節内運動②	
4	骨運動①	
5	骨運動②	
6	骨運動③	
7	神経筋再教育	
8	筋力①	
9	筋力②	
10	筋力③	
11	筋持久力	
12	全身持久力	
13	協調性	
14	全身調整	
15	まとめ(持久力、協調性、全身調整、神経筋再教育)	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
運動療法学 リハビリテーションリスク管理 第4版	市橋則明 編 亀田メディカルセンター	文光堂 MEDICAL VIEW

【科目名】

## 運動療法学Ⅱ

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	2
担当	宮崎 尚也	時間数	60	回数	30	授業方法	実験・実習・実技

## 授業の概要、到達目標

各種の障害に対して適切な運動療法が行えるよう、基礎的技術について学習する。

- ①関節可動域制限に対する運動療法を実施できる
- ②筋力低下に対する運動療法を実施できる
- ③筋持久力低下に対する運動療法を実施できる
- ④全身持久力低下に対する運動療法を実施できる
- ⑤協調運動障害に対する運動療法を実施できる
- ⑥筋緊張異常に対する運動療法を実施できる
- ⑦治療体操を指導することができる

回数	講義内容	備考
1・2	他動運動① 上肢関節	
3・4	他動運動② 下肢関節	
5・6	自動運動、自動介助運動	
7・8	副運動①	
9・10	副運動②、伸張運動①	
11・12	伸張運動②	
13・14	関節可動域運動① 上肢	
15・16	関節可動域運動② 下肢	
17・18	抵抗運動 上肢	
19・20	抵抗運動 下肢	
21・22	筋力増強運動	
23・24	協調性訓練	
25	筋持久力運動	
26	リラクゼーション訓練	
27・28	治療体操	
29・30	全身調整訓練	金 光浩先生

## 【成績評価方法】

<内容>①実技試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
配布資料		

【科目名】

## 運動療法学Ⅲ

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	3年	開講期間	通期	単位数	1
担当	複数講師	時間数	30	回数	15	授業方法	実験・実習・実技

## 授業の概要、到達目標

神経生理学を基礎とした技術及び、理学療法にかかる最新の治療手技について体系的に理解する。

- ①AKA-Hについて説明できる
- ②ボバース概念について説明できる
- ③PNFについて説明できる
- ④SJFについて説明できる
- ⑤足底板療法について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2 3・4	動作改善に向けた神経生理学的アプローチ①	山中
5	SJF①	姫野
6・7 8・9	ボバース概念①	日浦
10	SJF②	姫野
11・12 13・14	動作改善に向けた神経生理学的アプローチ②	山中
15・16	SJF③	姫野
17・18	AKA-H①	前
19・20 21・22	PNF① 講義(哲学、基本原理、手段、テクニック など) 実技(デモンストレーション・グループワーク など)	吉田
23・24 25・26	足底板療法	渡辺
27・28 29・30	ボバース概念②	日浦
31・32	AKA-H②	前
33・34 35・36	PNF② 実技(パターン練習、ADLトレーニング) 症例紹介、まとめ	吉田
37・38	AKA-H③	前

## 【成績評価方法】

<内容>①出席点

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

## 物理療法学 I

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	1
担当	新田 章貴	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

適切な物理療法が行えるよう、温熱療法、電磁波療法、寒冷療法、マッサージ療法等について定義・目的・効果と適応・手技・リスク管理などを中心に学習する。

- ①物理療法の種類を説明できる
- ②物理療法（温熱療法、電磁波療法、寒冷療法、マッサージ療法）の適応と禁忌が説明できる
- ③物理療法（温熱療法、電磁波療法、寒冷療法、マッサージ療法）に実施方法について説明できる
- ④物理療法（温熱療法、電磁波療法、寒冷療法、マッサージ療法）が実施できる

回数	講義内容	備考
1	物理療法総論（物理療法の種類、物理療法の現状、診療報酬について）	
2	リスク管理	
3	温熱療法①：温熱療法とは	
4	温熱療法②：熱量、熱の分類	
5	温熱療法③：温熱による生体反応	
6	温熱療法④：ホットパック、パラフィン療法	
7	温熱療法⑤：ホットパック、パラフィン療法	
8	電磁波療法①：総論、赤外線	
9	電磁波療法②：赤外線、超短波	
10	電磁波療法③：超短波療法、光線療法（紫外線・赤外線）、極超短波、紫外線 ホットパック・パラフィン（実技）	
11	レーザー、赤外線、超短波	
12	実技、極超短波	
13	寒冷療法①、レーザー、紫外線	
14	寒冷療法②（コールドスプレー、極低温療法）、アイシングマッサージ実技 超短波・マイクロ（実技）	
15	マッサージ 総論、マッサージ 実技	

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;筆記試験

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習	日高正巳・玉木 彰	中山書店



【科目名】

## 物理療法学Ⅱ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	1
担当	新田 章貴	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

適切な物理療法が行えるよう、水治療法、圧迫療法、牽引療法、超音波療法、電気療法等について定義・目的・効果と適応・手技・リスク管理などを中心に学習する。

- ①物理療法の種類を説明できる
- ②物理療法（水治療法、圧迫療法、牽引療法、超音波療法、電気療法）の適応と禁忌が説明できる
- ③物理療法（水治療法、圧迫療法、牽引療法、超音波療法、電気療法）に実施方法について説明できる
- ④物理療法（水治療法、圧迫療法、牽引療法、超音波療法、電気療法）が実施できる

回数	講義内容	備考
1	物理療法総論、定義、目的、炎症・疼痛について	
2	水治療法① 物理的特性、生理学的作用、各種治療法	
3	水治療法② 水治療法実習（過流浴、交代浴）	
4	圧迫療法① 効果、浮腫・DVTの病態、適応、禁忌	
5	圧迫療法② 治療技術（弾性包帯、マッサージなど）、圧迫療法 実習	
6	牽引療法 歴史、効果、種類、頸椎・腰椎牽引の設定、持続的他動運動（CPM）	
7	超音波療法 効果、適応、禁忌、超音波療法デモ	
8	超音波療法 実習	
9	電気診断法① 強さ-時間曲線、電気診断法② 神経伝導速度	
10	電気療法① 電気生理学、低周波療法の効果 治療手順（その1）	
11	電気療法① 電気生理学、低周波療法の効果 治療手順（その2）	
12	電気療法② 各種電気療法（TENS, FESなど）、電気療法デモ	
13	電気療法③ 実習	
14	電気療法③ 実習	
15	電気療法③ 実習	

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
物理療法学 第2版	松澤 正	金原出版

【科目名】

## 義肢学

令和4年度

【科目名】 義肢学						令和4年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2年	開講期間	後期	単位数	2
担当	桶田 勝文	時間数	45	回数	23	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
義肢に関する基礎的知識、適合判定、訓練について学習する。 ①義肢の種類を説明できる ②義肢の適合性の確認について説明できる ③義肢のアライメント調整ができる							
回数	講義内容						備考
1	切断患者に対するリハビリテーション、切断について、切断から生じる Impairment						
2	四肢切断者の状態、および管理方法について						
3	義足総論、下腿義足(ソケットと bench alignment)						
4	下腿義足(ソケットと bench alignment)、足継手						
5	下腿義足(static alignment, dynamic alignment)						
6	下腿義足(static alignment, dynamic alignment)						
7	大腿義足(ソケット)						
8	大腿義足(ソケット)、膝継手						
9	大腿義足(bench alignment)						
10	大腿義足(static alignment)						
11	大腿義足(static alignment, dynamic alignment)						
12	大腿義足(dynamic alignment)						
13	大腿義足(dynamic alignment)						
14	股義足(ソケット、各 alignment)						
15	サイム義足、膝義足、膝継手、足義足						
16	下肢切断患者における評価(検査・測定)						
17	下肢切断患者における評価(検査・測定)						
18	下肢切断における理学療法						
19	下肢切断における理学療法(模擬義足)						
20	下肢切断における理学療法(模擬義足)						
21	I 義手、①上肢の切断・各種義手、②体験義手装着訓練、③筋電義手 II 最新の知見を交えて、①義肢の作製、②模擬義足体験(スポーツ用義足)						
22							
23							

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 義肢学	石川 朗	中山書店

【科目名】

## 装具学

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	後期	単位数	1
担当	高井 悠二	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

装具に関する基礎的知識、適合判定、訓練について学習する。

- ①装具の種類を説明できる
- ②装具の適合性について説明できる
- ③福祉用具の適用について説明できる
- ④車椅子の調整ができる

回数	講義内容	備考
1	総論	
2	装具の構成	
3	短下肢装具	
4	長下肢装具	
5	靴型装具	
6	下肢装具のチェックアウト	
7	下肢装具のチェックアウト<演習>	
8	体幹装具	
9	上肢装具	
10	自助具作成<演習>	
11	歩行補助具	
12	脳卒中片麻痺の装具	
13	整形外科疾患の装具	
14	関節リウマチの装具	
15	対麻痺・小児の装具	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
装具学 第2版 15レクチャーシリーズ 理学療法学テキスト	石川 朗	中山書店

【科目名】

## 日常生活活動学総論

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	1
担当	北林 佑介	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
日常生活活動に関する適切な評価、及び指導の基本的事項について学習し、演習を通じて基本的動作訓練方法を学ぶ。							
①日常生活活動について説明できる ②日常生活活動の評価を実施できる ③基本的動作訓練が実施できる							
回数	講義内容						備考
1	ADL の概念						
2	ADL と障害、ADL と QOL						
3	動作訓練とは(訓練技術)						
4	評価とは						
5	Barthel Index、FIM						
6	その他の評価、動作分析とは						
7	動作分析(寝返り)						
8	動作分析(起き上がり)						
9	動作分析(立ち上がり)						
10	動作分析(歩行)						
11	杖・松葉杖説明						
12	杖・松葉杖介助						
13	車椅子介助						
14	動作介助(立ち上がり、床からの立ち上がり)						
15	動作介助(臥位から長坐位、移乗、歩行介助)						

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験②実技試験

&lt;基準&gt;①②合算し、素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版 姿勢と動作 第3版	奈良 勲 齋藤宏	医学書院 メヂカルフレンド社

【科目名】

## 日常生活活動学各論

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	後期	単位数	1
担当	石川定、和田善行	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

各種障害を有した対象者の日常生活活動を指導するための基本的事項を学習し、演習を通じて指導技能を学ぶ。

- ①脳障害患者の日常生活活動を指導できる
- ②一側下肢障害患者の日常生活活動を指導できる
- ③脊髄障害患者の日常生活活動を指導できる
- ④呼吸器障害患者の日常生活活動を指導できる
- ⑤関節リウマチ患者の日常生活活動を指導できる

回数	講義内容	備考
1	講義 理学療法の目標、ADL 向上のアプローチ、ADL の実用性、各疾患の ADL の特徴、ADL 訓練について	
2	脳卒中片麻痺のADL(講義)脳卒中患者のこれから、筋緊張異常によって生じる障害因子、脳卒中片麻痺患者の動画観察	
3	脳卒中片麻痺のADL(演習)	
4	脳卒中片麻痺のADL(演習)	
5	脳卒中片麻痺のADL(演習)	
6	一側下肢障害のADL(講義)	
7	一側下肢障害のADL(演習)	
8	一側下肢障害のADL(演習)	
9	脊髄損傷のADL(講義)	
10	脊髄損傷のADL(演習)	
11	脊髄損傷のADL(演習)	
12	呼吸器疾患のADL(講義)	
13	呼吸器疾患のADL(演習)	
14	関節リウマチのADL(講義)	
15	関節リウマチのADL(演習)	

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版 姿勢と動作 第3版	奈良 勲 齋藤宏	医学書院 メヂカルフレンド社

【科目名】

## 理学療法治療各論 I

令和 4 年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	宮崎尚也	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

脳障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。

- ①脳障害にかかる理学療法について説明できる
- ②脳障害にかかる理学療法について実施できる

回数	講義内容	備考
1	総論	
2	脳の機能と構造	
3	脳血管障害	
4	中枢性運動障害の病態(1)	
5	中枢性運動障害の病態(2)	
6	中枢性運動障害に対する評価(1)	
7	中枢性運動障害に対する評価(2)	
8	中枢性運動障害に対する評価(3)	
9	脳卒中後片麻痺に対する理学療法(1)	
10	脳卒中後片麻痺に対する理学療法(2)	
11	脳卒中後片麻痺に対する理学療法(3)	
12	脳卒中後片麻痺に対する急性期の介入	
13	脳卒中後片麻痺に対する回復期の介入	
14	失行・失認タイプ別の理学療法	土井敏之先生
15	失行・失認タイプ別の理学療法	土井敏之先生

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験・平常点

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
神経障害理学療法学 I 第2版 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	大畑光司	中山書店

【科目名】

## 理学療法治療各論Ⅱ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	後期	単位数	1
担当	高島 正治	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

脳性小児麻痺をはじめ小児の障害に対する理学療法の知識・技術を体系的に学習する。

- ①小児の障害にかかる理学療法について説明できる
- ②小児の障害にかかる理学療法について実施できる

回数	講義内容	備考
1	人間発達(運動)、資料DVD視聴	
2	人間発達(姿勢反応、反射、摂食、知的、認知など)	
3	脳性麻痺の概略	
4	痙直型脳性麻痺①	
5	痙直型脳性麻痺②	
6	痙直型脳性麻痺③	
7	アトローゼ型脳性麻痺	
8	重症心身障害	
9	小児整形疾患	
10	デュシャンヌ型筋ジストロフィー症	
11	ダウン症候群	
12	低出生体重児・ハイリスク児	
13	発達障害	
14	小児理学療法の特殊性	
15	資料映像視聴(脳性麻痺)、復習(試験対策)	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
イラストでわかる小児理学療法	上杉雅之監修	医歯薬出版

【科目名】

## 理学療法治療各論Ⅲ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	1
担当	新田 章貴	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

脊髄障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。

- ①脊髄障害にかかる理学療法について説明できる
- ②脊髄障害にかかる理学療法について実施できる

回数	講義内容	備考
1	脊髄損傷総論、専門用語、脊髄の解剖・機能生理①(疫学・脊柱・脊髄の解剖)	
2	脊髄の解剖・機能生理②(血管系)	
3	脊髄の解剖・機能生理③(伝導路、自律神経・反射、脊髄損傷発生分類と病態、発症機序、経過、完全・不全損傷)	
4	脊髄不全損傷の特殊型①(脊髄半側損傷、後部損傷)	
5	脊髄不全損傷の特殊型②(中心性障害、前部障害) 脊髄損傷障害学①	
6	脊髄損傷障害学②(運動麻痺・感覚麻痺・自律神経障害)	
7	脊髄損傷障害学③(排便障害・呼吸機能障害)	
8	脊髄損傷障害学④(性機能障害・二次障害) 理学的評価①、総論、高位診断(感覚検査)	
9	理学的評価②、高位診断(感覚・筋力検査)、高位診断(反射)、評価分類、ADL	
10	治療総論、病期別アプローチ、全身調整訓練、血管運動神経再教育、呼吸理学療法、関節可動域訓練、拘縮好発肢位・注意点	
11	神経筋再教育、基本的動作訓練、CKCとOKC、座位・長座位保持、寝返り・起き上がり、Push Up 動作	
12	車椅子動作訓練、基本的な車椅子動作の考え方、除圧法・キャスター挙げ・段差昇降、座位別使用車椅子	
13	自己管理指導、Self-ROM など、リフティング、床上動作・起き上がり・長座位への起き上がり	
14	実技(HAL 紹介、ホンダアシスト紹介、座圧測定、ボディウエイトサポート体験)	
15	装具・自助具、機器入力インターフェース、社会復帰、練習問題	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
病気が見える vol.7 脳・神経 第2版 理学療法ハンドブック 改訂第4版 第3巻 理学療法ハンドブック 改訂第4版 第4巻	細田多穂 細田多穂	メディックメディア 協同医書出版 協同医書出版



【科目名】

## 理学療法治療各論Ⅳ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	1
担当	田後裕之 ほか	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

骨・関節障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。

- ①骨関節障害にかかる理学療法について説明できる
- ②骨関節障害にかかる理学療法について実施できる

回数	講義内容	備考
1・2	運動器系の疾患に対する理学療法（総論） 総論、疾患分類、機能障害、関節運動学、治療目的と治療技術、理学療法の流れ	
3・4	骨折に対する理学療法 ①概要-定義・分類・治療法等 ②骨折の理学療法評価	
5・6	骨折に対する理学療法 治療、各論、高齢者の骨折	
7・8	有痛性疾患に対する理学療法 痛みに対する概要、有痛性疾患とは、有痛性疾患に対する評価・治療	
9・10	末梢神経損傷に対する理学療法 理学療法の評価手順、各論、グループワーク（腓骨神経マヒを例にして）	
11・12	外傷性関節損傷の理学療法 各定義と原則、理学療法	
13・14	関節疾患の理学療法 RA・OAの理学療法	
15・16	環境整備、介助（実技含む） 起居、移乗動作、介助、杖に関する実習、講義、質疑応答	

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
標準整形外科学 第14版	鳥巢 岳彦	医学書院

【科目名】

## 理学療法治療各論Ⅴ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	後期	単位数	1
担当	植田能茂	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

神経・筋障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。

- ①神経・筋障害にかかる理学療法について説明できる
- ②神経・筋障害にかかる理学療法について実施できる

回数	講義内容	備考
1	パーキンソン病に対するPT①	
2	パーキンソン病に対するPT②	
3	パーキンソン病に対するPT③	
4	PSPに対するPT	
5	ALSに対するPT	
6	SCDに対するPT①	
7	SCDに対するPT②	
8	MSに対するPT①	
9	MSに対するPT②	
10	GBSに対するPT	
11	MyDに対するPT	
12	FCMD、DMDに対するPT①	
13	DMDに対するPT②	
14	DMDに対するPT③	
15	DMDに対するPT④	

## 【成績評価方法】

①筆記試験

※素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ 改訂第2版	小森 哲夫 監	MEDICAL VIEW

【科目名】

## 理学療法治療各論Ⅵ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	後期	単位数	2
担当	増田 崇・森井 裕太	時間数	45	回数	23	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

内部(呼吸・循環・代謝)障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。なお、呼吸理学療法領域では喀痰等の吸引方法について実技を通じて学ぶ。

- ①内部障害にかかる理学療法について説明できる
- ②内部障害にかかる理学療法について実施できる
- ③喀痰等の吸引を実施できる

回数	講義内容	備考	回数	講義内容	備考
1	呼吸理学療法総論	増田	16	心臓の機能と構造	森井
2	呼吸器系の解剖学・運動学	増田	17	心電図の診かた・不整脈の診かた、不整脈の種類	森井
3	呼吸器系の生理学	増田	18	運動耐容能とその評価	森井
4	呼吸不全の病態と呼吸器疾患	増田	19	病態・検査と治療(虚血性心疾患・心不全)、診断・検査・治療について	森井
5	呼吸理学療法のための評価(1)フィジカルアセスメント	増田	20	糖尿病の病態、腎機能について	森井
6	呼吸理学療法のための評価(2)	増田	21	糖尿病の合併症と治療 三大合併症と足病変の病態・治療	森井
7	呼吸理学療法基本手技(1)コンディショニング	増田	22	糖尿病の理学療法 運動処方、リスク管理、運動効果	森井
8	呼吸理学療法基本手技(2)排痰法	増田	23	心管理理学療法の実際	森井
9	呼吸器理学療法基本手技(3)	増田	/		
10	呼吸理学療法基本手技(4)運動療法	増田			
11	酸素療法と呼吸理学療法	増田			
12	人工呼吸療法と呼吸理学療法	増田			
13	疾患別呼吸理学療法(1)慢性呼吸不全	増田			
14	疾患別呼吸理学療法(2)急性呼吸不全	増田			
15	吸引	増田			

## 【成績評価方法】

&lt;内容&gt;①筆記試験

&lt;基準&gt;素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
内部障害理学療法学 呼吸 第2版 15レクチャーシリーズ	石川朗ほか	中山書店
内部障害理学療法学 循環・代謝 第2版 15レクチャーシリーズ	石川朗ほか	中山書店

【科目名】

## 理学療法治療各論Ⅶ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	3年	開講期間	前期	単位数	1
担当	旦尚敏	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

スポーツ障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。

- ①スポーツ障害にかかる理学療法について説明できる
- ②スポーツ障害にかかる理学療法について実施できる

回数	講義内容	備考
1	スポーツ障害総論	
2	足関節外側側副靭帯損傷の病態と治療①	
3	足関節外側側副靭帯損傷の病態と治療②	
4	ACL損傷に対する理学療法①	
5	ACL損傷に対する理学療法②	
6	スポーツに特有な足部疾患とその対応①	
7	スポーツに特有な足部疾患とその対応②	
8	ランニング動作に関連した下腿・足部の障害①	
9	ランニング動作に関連した下腿・足部の障害②	
10	膝関節周囲のスポーツ障害①	
11	膝関節周囲のスポーツ障害②	
12	投球障害肩と理学療法Ⅰ	
13	投球障害肩と理学療法Ⅱ	
14	肘関節周囲のスポーツ障害	
15	肘関節周囲のスポーツ障害	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

## 理学療法治療各論Ⅷ

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	後期	単位数	1
担当	櫻井 公統	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

老年期障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。

- ①老年期障害にかかる理学療法について説明できる
- ②老年期障害にかかる理学療法について実施できる

回数	講義内容	備考
1・2	医療面接について/医療面接演習	
3・4	介護保険について	
5・6	高齢者の心理/身体的特性	
7・8	認知症高齢者の理解	
9・10・11	フィジカルアセスメント	
12	介護予防について	
13・14	住環境・住宅改修について	
15	介護予防演習	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

## 理学療法治療演習

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2年	開講期間	後期	単位数	1
担当	宮崎尚也	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

各種障害に対する理学療法の知識・技術の統合が図れるように総合的に学習する。

- ①骨関節障害にかかる基本的な理学療法プログラムを立案できる
- ②脳障害にかかる基本的な理学療法プログラムを立案できる
- ③神経・筋障害にかかる基本的な理学療法プログラムを立案できる
- ④脊髄障害にかかる基本的な理学療法プログラムを立案できる
- ⑤内部障害にかかる基本的な理学療法プログラムを立案できる

回数	講義内容	備考
1	統合と解釈①障害の予後②障害の把握③NEEDの把握	
2	変形性股関節症(人工股関節全置換術前後)のICIDHの解釈 グループワーク 解説、各疾患の障害の捉え方とIDHの作成①	
3	変形性股関節症(人工股関節全置換術前後)のICIDHの解釈 グループワーク 解説、各疾患の障害の捉え方とIDHの作成②	
4	大腿骨頸部骨折(人工骨頭置換術後)における組織の修復過程と修復期間	
5	腰部脊柱管狭窄症(除圧固定術後) ICF分類、病態を調べる、ICIDH小テスト	
6	膝前十字靭帯損傷(再建術後) ICF分類、病態を調べる、ICF小テスト	
7	足関節捻挫 ICF分類、病態を調べる	
8	脳梗塞(右半球・急性期) 病態を調べる	
9	脳梗塞(左半球・回復期) 動作分析①	
10	脳出血(小脳・急性期) 動作分析② D→Iの仮設をたてる	
11	パーキンソン病 動作分析③	
12	多発性硬化症 ポートフォリオの作成	
13	不全脊髄損傷 治療について(目的)(方法)(注意事項)考える	
14	慢性閉塞性肺疾患(COPD) 治療実施 治療についての発表(各班7分)、フィードバック3分	
15	急性心筋梗塞 SOAP法について	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
PT症例レポート赤ペン添削ビフォー&アフター	相澤純也	羊土社

【科目名】

## 生活環境論

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	後期	単位数	1
担当	中谷 年成	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

障害者の生活環境におけるバリアを理解し、リハビリテーションの視点から評価・治療計画、住宅改造等を学習する。

- ①バリアフリーの概念について説明できる
- ②バリアフリーに関係する法制度について説明できる
- ③福祉住環境について説明できる
- ④住宅改造について立案できる

回数	講義内容	備考
1	ガイダンス・生活環境論とは(統計問題、現在の日本の状況)	
2	私たちの暮らしと環境① エネルギー資源と生活環境(エネルギー問題、病院のエネルギー対策、病院の非常電源)	
3	私たちの暮らしと環境② 水と生活環境、住まいと生活環境①	
4	私たちの暮らしと環境③ 身近な環境問題、住まいと生活環境②	
5	病院などの環境対策について	
6	病院、普段の生活での防災対策	
7	安全な住まいと今後の問題点①	
8	安全な住まいと今後の問題点②	
9	安全な住まいと今後の問題点③	
10	安全な住まいと今後の問題点④	
11	病院、施設等の建物について	
12	病院・施設の建物について	
13	患者のパーソントリップ調査、まちの中での危険性、病院のSDGsの取り組み	
14	福祉のまちづくり	
15	リハビリ施設の図面作成、総まとめ	

## 【成績評価方法】

<内容>①筆記試験②平常点

<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
講義資料		

【科目名】

## 地域理学療法学

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	3年	開講期間	前期	単位数	1
担当	複数名	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

医学モデルから生活モデルへの転換を含めて、実生活の場で対象者支援を行うために必要な基礎知識を習得する。また、対象者の生活を基にした問題解決方法について理学療法士の視点から学習する。

- ①地域理学療法における理学療法士の役割について説明できる
- ②入所施設における理学療法について説明できる
- ③通所施設における理学療法について説明できる
- ④訪問における理学療法について説明できる
- ⑤地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割について説明できる
- ⑥地域における多職種連携について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	地域理学療法学概論 (地域理学療法における理学療法士の役割・特別養護老人ホームの理学療法・多職種連携)	渡辺
3・4	理学療法士の役割 地域における多職種連携(傾聴他)	中島
5・6	地域理学療法における理学療法士の役割(ADLと基本動作・自立度介助量) 入所(維持期)における理学療法士の役割(症例を通して)	杉田
7・8	患者さんの望む Handicap(望む生活に近づけられるリハ目標の設定から、実現するまでに至る理学療法士としての働きかけについて) 今後の生活を見据えた退院支援(退院の方向性を決める要素、退院に向けての理学療法士の役割・望む生活を獲得し、継続して生活を送ってもらうために)	井上 (芝本)
9・10	介護予防におけるセラピストの役割・心理について(経験談より介護予防とは何かを知る・目標を達成するために療法士の心得、役割)(訪問リハ・デイケアについて)	西野 (池田)
11・12	地域包括ケアシステムの理解、理学療法士の役割を理解し、地域で必要とされる療法士になるためにどのような事を意識しておくべきかを学ぶ	西野
13・14	訪問リハビリ(訪問リハの強み・楽しさ・患者に求められることについて) 環境改善(患者に合った環境設定や福祉用具の設定を行うことができる・環境の意味を考えるきっかけを作る)	香月 (林)
15・16	退院前訪問、理学療法士に求められる能力、まとめ (地域リハビリテーションの中で理学療法士としての役割、求められる能力・望む望ましい生活を把握するための条件・業務連携について・事例紹介)	井上

## 【成績評価方法】

<内容>①レポート課題(講義欠席の場合は資料を確認してレポートの提出が可能である。ただし減点対象。)  
<基準>素点が6割以上で単位修得

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		



【科目名】

## 地域サービス技術論

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	3年	開講期間	前期	単位数	1
担当	複数講師	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

地域包括ケアシステムの展開から、理学療法の領域拡大を見据えて、介護予防や健康増進、さらには災害時支援、国際支援など、視野を広げた医療機関以外での理学療法士の活動について学習する。

- ①健康増進における理学療法について説明できる
- ②災害時における理学療法士の役割について説明できる
- ③国際支援における理学療法士の役割について説明できる
- ④終末期医療における理学療法士の役割について説明できる
- ⑤産業理学療法における理学療法士の役割について説明できる
- ⑥学校保健および特別支援における理学療法士の役割について説明できる
- ⑦障害者スポーツ支援における理学療法士の役割について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	産業理学療法	岡原聡
3	学校保健、特別支援における理学療法士の役割	福本貴彦
4	健康維持、増進における理学療法士の役割	富樫昌彦
5・6	障害者スポーツ支援における理学療法士の役割	片岡正教
7・8	言語聴覚概論、言語聴覚士が扱う障害、コミュニケーション障害者への対応 嚥下障害と食べ方の工夫について	鈴木昌仁
9	災害時の理学療法①	姫野吉徳
10	災害時の理学療法②	姫野吉徳
11・12	緩和ケア①	尾崎由美
13	緩和ケア②	尾崎由美
14・15	国際支援における理学療法	斎藤謙二

## 【成績評価方法】

<内容>①出席点 <基準>素点が6割以上で単位修得
------------------------------

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

## 見学実習

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	1
担当	複数教員	時間数	40時間以上 時間外含め45時間以内			授業方法	実験・実習・実技

## 授業の概要、到達目標

理学療法全体の全体像を把握し、専門領域への導入を助けるとともに、理学療法士として対象者への対応等について見学を実施する。特に本校では地域包括ケアシステムの理解を深めるための実習としても位置付けており、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習を通じて学習する。なお、受講にあたり臨床実習前の及び臨床実習後の評価を実施し、臨床的技術の到達状況を確認する。

- ①清潔で適切な身だしなみ、ことば遣い、礼儀正しい態度で対象者に接することができる
- ②共感的態度をもって、より良い人間関係を構築することができる
- ③自らが置かれた立場で、必要とされる要件を認識し、指導者の助言に対して適切に応答することができる
- ④医療職としての心得や職場内におけるルールを守ることができる
- ⑤守秘義務を果たし、プライバシーを守ることができる
- ⑥臨床実習施設が関わる地域包括ケアについて説明することができる

回数	講義内容
期間	令和5年1月10日～1月20日 (実習時間40時間以上で、実習時間外学習時間を含み45時間以内)
実習目的	理学療法全体の全体像を把握し、理学療法士として対象者への対応等について理解を深める。また症例見学を通して、情報収集から理学療法プログラム立案、実施計画の作成にいたる理学療法プロセスについても理解を深める。
実習目標	見学実習では、病院・施設の見学を通して、地域社会や保健・医療・福祉分野における理学療法士の役割と責任を全体的に理解する。

## 【成績評価方法】

<内容> ①CBT②実習出席率③成果表判定④提出物⑤学内報告会内容⑥報告会出席率

<基準> ①～⑥合算し、素点が6割以上で単位修得。なお、欠席日数が5日以上の場合は評価を受ける資格を失う。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
全ての科目の教科書および参考図書		

【科目名】

## 評価実習

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2年	開講期間	通期	単位数	5
担当	複数教員	時間数	200時間以上 時間外含め225時間以内			授業方法	実験・実習・実技

## 授業の概要、到達目標

評価実習では、学内教育（基礎、専門基礎、専門）を基礎として、病院・施設の臨床指導者の指導・監督のもとで、多種多様な疾患や障害を有する対象者に対して、情報収集、検査・測定等を行って対象者の状態に関する評価を実施する。なお、受講にあたり臨床実習前の及び臨床実習後の評価を実施し、臨床的技能の到達状況を確認する。

- ①検査測定項目・情報収集項目の抽出・取舍選択の理由を説明できる
- ②検査測定結果の関連性について説明できる
- ③対象者が抱える課題を抽出し、その抽出理由について説明できる
- ④実施内容を記録に残すことができる
- ⑤カンファレンスでの症例提示内容について説明できる

回数	講義内容
期間	①評価実習Ⅰ 令和2年7月13日～7月31日 (実習時間80時間以上で、実習時間外学習時間を含み90時間以内) ②評価実習Ⅱ 令和2年1月25日～2月19日 (実習時間120時間以上で、実習時間外学習時間を含み135時間以内)
実習目的	①評価実習Ⅰ 対象者に対する検査測定技術の実践的能力を身につけること及び理学療法評価の流れを経験することを主たる目的とする。 ②評価実習Ⅱ 病院・施設等の理学療法部門において、臨床指導者の指導を仰ぎながら、症例を通して、情報収集から理学療法プログラム実施計画の作成にいたる理学療法評価についての実践的基礎能力を身につけることを主な目的とする。
実習目標	①評価実習Ⅰ 検査測定の専門知識および専門技術を整理する。学内で習得した検査・測定の知識や技術を臨床場面で実践体験する。理学療法に関わる検査・測定の適切性を高める。収集した情報および個々の検査結果をもとにして対象者の障害像を捉え、主要な問題を把握する。 ②評価実習Ⅱ 指導のもと、検査測定、治療・訓練の経験を通して、それらの目的や対象者の疾病と障害を理解することを目標としている。 また可能な限り同一の症例で(1)情報収集(2)面接(3)検査・測定(4)統合と解釈(5)問題点抽出(6)目標設定などを実践する。

## 【成績評価方法】

<内容>①CBT②実習出席率③成果表判定④提出物⑤学内報告会内容

<基準> I期Ⅱ期それぞれで①～⑤を合算し、それぞれの素点を算出する。I期Ⅱ期の素点を合算して120点以上であり、かつⅡ期の素点が60点以上であれば単位修得。なお、欠席日数が5日以上の場合には評定を受ける資格を失う。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
全ての科目の教科書および参考図書		

【科目名】

## 総合臨床実習

令和4年度

						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	3年	開講期間	通期	単位数	15
担当	全教員	時間数	600時間以上 時間外含め675時間以内			授業方法	実験・実習・実技

## 授業の概要、到達目標

総合臨床実習では、学内教育（基礎、専門基礎、専門）を基礎として、病院・施設の臨床指導者の指導・監督のもとで、多種多様な疾患や障害を有する対象者に対して、障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践並びに治療効果判定について学習する。なお、受講にあたり臨床実習前の及び臨床実習後の評価を実施し、臨床的技能の到達状況を確認する。

- ①対象者の治療目標を設定し、その設定根拠について説明できる
- ②理学療法プログラムを選択し、その根拠について説明できる
- ③理学療法の即時効果を確認し、その内容について説明できる
- ④実施内容を記録に残すことができる
- ⑤カンファレンスでの症例提示内容について説明できる

回数	講義内容
期間	①総合臨床実習Ⅰ期 令和3年4月12日～6月11日 (実習時間320時間以上で、実習時間外学習時間を含み356時間以内:前後評価4時間) ②総合臨床実習Ⅲ期 令和3年8月23日～10月15日 (実習時間280時間以上で、実習時間外学習時間を含み311時間以内:前後評価4時間)
実習目的	総合臨床実習は、理学療法教育の最終段階として位置するものであり、理学療法業務の総合的な臨床学習を行うことを通して、学内外で習得した知識、技術を応用し実践することを主な目的とする。またリハビリテーションチームの一員として、理学療法士としての役割を自覚し、組織管理、運営機構について認識するとともに、医療専門職としての責任ある態度、行動がとれるようになることを目的とする。
実習目標	<p><b>I. 基礎的態度</b></p> <p>(1) 医療専門職従事者としての人格・知識・技術の向上するように、常に努力する。</p> <p>(2) 報告・連絡・相談の実践、課題提出の厳守に努める。</p> <p><b>II. 評価</b></p> <p>(1) 各疾患(障害)別の評価過程が実践できること。</p> <p><b>III. 理学療法の治療計画</b></p> <p>(1) 予後予測をし、問題点や目標に対応した治療プログラムが設定できること。</p> <p>(2) 治療目的に対して有効な治療の選択(手段、順序、時間、回数など)ができ、理論的裏付けができること。</p> <p><b>IV. 理学療法の実施と再評価</b></p> <p>(1) 立案したプログラムに沿って、治療が実施できる</p> <p>(2) 治療経過による変化が認識できること。</p> <p>(3) 再評価を実施し、治療効果の判定、治療目標、治療プログラム等の再検討や修正ができること。</p> <p>※Ⅰ期はⅠ～Ⅳ(1)の範囲、Ⅲ期はⅠ～Ⅳ(3)の範囲が目標となる。</p>

## 【成績評価方法】

<内容>①CBT②OSCE③実習出席率④成果表判定⑤提出物⑥学内報告会内容

<基準>Ⅰ期Ⅲ期それぞれで①～⑥を合算し、それぞれの素点を算出する。Ⅰ期Ⅲ期の素点を合算して120点以上であり、かつⅢ期の素点が60点以上であれば単位修得。なお、欠席日数が5日以上の場合は評定を受ける資格を失う。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
全ての科目の教科書および参考図書		

【科目名】

## 卒業課題

令和4年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	3年	開講期間	通年	単位数	2
担当	複数教員	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

## 授業の概要、到達目標

学内の履修の総括として、理学療法士に必要となる専門基礎的知識及び専門的知識を、国家試験出題基準に則り体系立てて学習する。

①学内履修の総括として理学療法にかかる専門基礎的知識について説明できる

②学内履修の総括として理学療法にかかる専門的知識について説明できる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	呼吸器について、解剖・生理・運動・病理	14	人間発達学
2	泌尿器について、解剖・生理・運動・病理	15	臨床心理学
3	循環器について、解剖・生理・運動・病理	16	物理療法学①
4	消化器について、解剖・生理・運動・病理	17	物理療法学②
5	内分泌について、解剖・生理・運動・病理	18・19	脊髄損傷 PT
6	免疫について、解剖・生理・運動・病理	20・21	呼吸 PT
7	内科学(代謝)	22	精神医学
8	内科学(呼吸)	23	義肢学
9	装具学	24・25	整形 PT
10・11	評価学	26・27	神経筋 PT
12・13	循環器 PT	28・29	脳血管障害 PT

## 【成績評価方法】

<内容> ①筆記試験(2回実施)

<基準> 第1及び第2回試験それぞれにおいて、専門・共通ともに50点以上で、かつ合計120点以上のとき単位修得。

第1回試験に不合格者は、第2回試験で専門・共通ともに60点以上で、かつ合計130点以上のとき単位修得。

## 【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

# 令和3年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：令和3年4月1日

至：令和4年3月31日

評価基準日 令和4年4月1日

学校法人栗岡学園

奈良リハビリテーション専門学校

学校関係者評価 評価委員

(敬称略 50音順)

委員長 米澤 泰司

委員 大原 敏敬

委員 川原 勲

委員 酒井 真紀

委員 谷川 優香

委員 前原 園代

委員 宮野 博

評価項目の達成および取組状況

1 教育

2 施設・設備

3 学生サービス

4 教育面などでの特筆すべき取り組み

自己評価回答責任者

副校長 太田 むつ子

学科長 宮崎 尚也

# 1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者評価コメント
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	当校の教育目標である「向上心をもって取り組む」、「感受性を養う」点に関して、学内での教科や行事、臨床実習を通じて人間性豊かな人材を育成できるよう取り組んでいる。 実習授業ではコロナ禍により滞りが出ており、演習等により代替を行っている。	座学や実技演習、臨床実習等を併用することで、多角的な視点を養えるよう各教員がそれぞれ対応している。また学生の特性に応じた個人対応も適宜行っており、多様化する学生の背景に応じたきめ細かい指導を行っている。 一方、コロナ禍によりカリキュラムが予定通り進行しないことがあり、教育目標に沿うように調整が必要となるのが課題である。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	医療人に必要となる基礎的態度や豊かな社会性を育む為に、教育目標に沿ったカリキュラムを予定通り展開することが必要である。コロナ禍は続くと思われるが、制限が多いなかでも目標が達成できるカリキュラム、指導体制の構築を続けていく必要がある。	多様化する学生の背景に対応したきめ細かい指導を行っている点はとても素晴らしいが、教職員数の制約もあり、継続して更に充実させるためには様々な学校としての取組が必要となる（大原委員）  学校の特長を前面に出すことにより、学生の学びたいという気持ちを誘発している（川原委員）  今後もコロナ禍が続くと思うのでそれに応じたカリキュラムづくりを（谷川委員）
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	指定規則に準拠した教育内容をしっかりと反映させることはもちろん、現場で導入が進んでいるロボティクスリハについての教育を実践している。	特徴ある教育として行っているロボティクスリハ教育が軌道に乗り、教育内容について発表する機会も得た。今後はアウトカム評価についての基準の明確化は課題である。	5 4 3 2 1 + 4 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	本校の特徴ある教育内容については、関係各所の理解も深まっており、教育モデルの構築も期待されているところである。今後も関係機関と連携を取りながら、新たな教育の形を発信できるように務めたい。	学生募集上もこれから求められるスキルを入れることでプラスになっていくと思われる（大原委員）  最先端のリハビリテーションを経験することで、卒後も抵抗なく新しい技術を取り入れることが可能となっている（川原委員）  ロボティクスリハについての教育を更に充実させ、外部にアピールすることにより関係県との連携が深まると思う（谷川委員）
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	年度当初に組んでいる学年予定が、コロナ禍により滞ることがあった。	予定がズレることはあったものの、各所のご協力が無事に予定を修了することができた。 一方で、今後も続くであろうコロナ禍を想定した学年進行予定をどう組んでいくのが課題である。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	予定と異なるタイミングで授業が進行するとその学習効果が想定したものと異なることが考えられる。このような中でも学習の質が担保できるよう、ICT を利用した教育の充実を図っていく。	コロナ禍でスケジュール通りに進まない面もあったが到達すべきレベルに達している（川原委員）  課題達成のための対応策の実行（酒井委員）  コロナ禍の状況も刻々と変化するのでフットワークよく対応することが求められます。慎重かつ大胆に英断することが重要（宮野委員）



<p>4. シラバス(授業要項)を作成していますか(内容は適切ですか)</p>	<p>シラバスを作成している。内容も期末や年度末に更新している。</p>	<p>学期開始以前に、講師・専任教員の講義内容を含めてシラバスを更新、学生に提示できるようにしている。一方、コロナ禍によりシラバスと異なる内容となった授業もあった。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>③ ふ</p> <p>2</p> <p>1 不 十分</p>	<p>シラバスと異なる教授方法であったとしても、教育目標がずれないようにすることが重要である。ある程度、コロナ禍による授業制限を想定したシラバスの作成を検討する必要がある。</p>	<p>概ねシラバスに則して実施していたが、一部は内容が異なるものもあった。到達目標には達していた(川原委員)</p> <p>学生が困惑しないよう予め、コロナ禍を想定したシラバス作成が必要だと思います(谷川委員)</p> <p>時代のニーズに見合った授業展開も必要と考える(酒井委員)</p>
<p>5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか</p>	<p>カリキュラムの見直しは、学年担任、教務主任、学科長を含めて教員全員で検討し、学校長の承認を得る体制をとっている。</p>	<p>指定規則変更に伴うカリキュラム整理により、現状はより幅広い臨床現場でのニーズを反映したものとなっている。一方で、もっと現場のニーズを反映できるような体制も必要と考える。</p>	<p>5 + 分</p> <p>④</p> <p>3 ふ</p> <p>2</p> <p>1 不 十分</p>	<p>カリキュラム上の課題については学内で検討することを基本としており、これにより特徴ある教育の展開が可能となっている。今後は多くの外部者からシラバスに対する意見を頂き、よりニーズに即した教育が展開できる工夫が必要である。</p>	<p>現実に則した内容に修正しており、現場のニーズに合ったものであった(川原委員)</p> <p>時代のニーズに見合った授業展開も必要と考える(酒井委員)</p>
<p>6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか</p>	<p>基本的な採用基準は「臨床で活用できる」また「国家試験等に利用可能」であり、学内外で有効活用できる教材を検討して採用している。外部講師にもこのことはご理解いただいているところである。</p>	<p>学生アンケートや講義の実情に即して、使用図書を厳選し、より良いものを選定できるように努力している。また ICT 教育を導入し、タブレットを併用した教育手法を適宜実践している。</p>	<p>5 + 分</p> <p>④</p> <p>3 ふ</p> <p>2</p> <p>1 不 十分</p>	<p>学生アンケートを通じて、科目ごとの教科書採用についての意見を確認している。一部改善の要望もみられるため、担当講師と相談のうえ、改善に努める必要がある。</p>	<p>学内の授業だけでなく、臨床でも継続して使用できる教材を取り入れている(川原委員)</p> <p>教材の採択の担当が不明なので、組織的に対応されているとは思いますが、学生にアンケートを取っているのは評価できると思います(宮野委員)</p>

<p>7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか</p>	<p>開講時にはシラバス等を通じて教育目標や評定方法を明示し、この上で学科試験を実施し評定を下している。臨床実習に於いても各実習における到達目標に基づいて、実習前後の試験や成果点を通じて判定する。</p>	<p>基本的な成績評価は科目の特徴に沿って設定した基準で行っている。一方で、急遽遠隔授業に切り替わった科目では当初の成績評価が出来ないケースもあり、適切性を損わない工夫が必要であった。</p>	<p>5 十 分</p> <p>④</p> <p>← つ →</p> <p>3 2 1 ふ 不 う 分</p>	<p>科目ごとに定められた教育目標の達成が適切に測れるような評価方法の選択が重要である。特に臨床実習においては、コロナ禍で経験できることの制限が個人ごとに異なり、成果にばらつきがみられた。今後は客観性を保ちながらも、学生ごとの学習状況を踏まえた評価の検討が必要である。</p>	<p>各教科ごとに細かい評価基準を設定しており、大きな問題はないと思われる(川原委員)</p> <p>コロナ禍で臨床実習が十分に設けることが出来なかったと思われる。本来の実習時間からどの程度不足していたか、成果にばらつきがないよう対応を(酒井委員)</p> <p>成績評価が困難な授業ほ、有る面では良い授業だと判断できる側面もあると思います(宮野委員)</p>
<p>8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか</p>	<p>科目ごとに学生の理解が深まるような教授方法を選択している。また授業進行中に滞りが見られた場合、教員間での相談はもとより、外部講師からも相談を受けて、教授方法に工夫ができるようにしている。</p>	<p>科目によっては授業中の小テストや中間テスト、理解を深めるような視聴覚教材の提供など行っており、学生からは好評である。一方で、学習が滞っている学生については補習などを行っている。</p>	<p>5 十 分</p> <p>④</p> <p>← つ →</p> <p>3 2 1 ふ 不 う 分</p>	<p>理解度は学生ごとに異なるので、個人ごとに課題を設定して、補助資料や補習を行うことが効果的と考える。学生ごとに異なる課題をしっかりととらえることが重要で、弱点克服はもとより、強みを伸ばす工夫も必要である。</p>	<p>各教科ごとに理解できているか確認して理解が不十分な学生には個別に対応できている(川原委員)</p> <p>十分な対応をされていると感じる(酒井委員)</p> <p>時代の流れとして、確かに強みを延ばす教育に方向チェンジされていると思います(宮野委員)</p>
<p>9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか</p>	<p>入学前より就学前ワークブックを実施させ、学力の底上げを図るとともに時間外学習の時間を最大限活用しながら個別対応を積極的に実施している。</p>	<p>学力の二極化については大きな懸案の一つであり、単なる講義だけでは補えない側面がある。従って講義外における具体的な取り組みを模索しながら、検討を続けている。</p>	<p>5 十 分</p> <p>4 ③</p> <p>← つ →</p> <p>2 1 ふ 不 う 分</p>	<p>入学前教育による意識づけや、入学後の基礎学力向上のための抜本的な改善を模索しながら、学習に対する意識面での改革を促す方を考える。</p>	<p>入学前教育については高校の進路教員との連携を密にして教材の提供など共有してはいかかが(大原委員)</p> <p>負担とならない範囲で、自主学習を勧めており、問題ないと考え(川原委員)</p> <p>国試合格率には反映されているか(酒井委員)</p> <p>入学前学習も大切だが、併せて生活習慣の確立に向けた心構えの再認識も重要だと思われる(宮野委員)</p>

<p>10. マナー(喫煙指導などを含む) やしつけの教育や指導を行っていますか</p>	<p>科目内での教授や学内生活、ビジネスマナー講座等を通じて、医療従事者としてふさわしい立ち振る舞いがとれるよう、学内外において教職員が指導を実施している。新型コロナウイルス感染予防対策におけるマナーも併せて指導している。</p>	<p>現状では学内外におけるマナーや基本的な接遇面では、必要に応じて適宜指導を続けることで、学生自身の変化を促すことができているが、入学前に養われてきた背景が強く影響されるため、学内における指導が入りにくい印象を持つ学生も散見される。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 十 十 十 十 ← つ → 分 う 分</p>	<p>厳格に設定した基準に基づいて指導を進める一方、各学生個人がもつパーソナリティや背景を含めた総合的なアプローチができるように努力する必要がある。</p>	<p>社会人、医療人として信頼される人材育成を行っている、素行不良者には個別対応をとっている(川原委員) 指導が難しい一面もありながら十分な対応をされている(酒井委員)</p>
<p>11. 教育技術(教育方法)の研修・研究を実施していますか</p>	<p>教員が各個人で学会や研修会を通じて研究発表や自己研鑽を続けている。また認定理学療法士は学校教育分野が2名、スポーツ理学療法分野が1名在籍しており、より良い教育を提供できるよう努力している。</p>	<p>教育方法手段に関しては、これを客観的に判断し、次に活かせるような仕組み作りが重要である。コロナ禍により学会等がオンラインになることがほとんどで、外部の先生方との意見交換などの場が少ないことが問題である。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 十 十 十 十 ← つ → 分 う 分</p>	<p>教育手法におけるスキル向上は教員自身の自己研鑽に依っており、今後も継続的に取り組んでいく必要がある。文献や発表を渉猟し、効果的な教授方法を模索し、また自らも発信できるような土壌作りを進めていく。</p>	<p>教育研修についても学校として研修計画を作成し、ノウハウを構築していくことが望ましい(大原委員) 学生に信頼される教員となる為、学会発表研修を行っている。学生の卒業研究など経験を増やす努力が必要である(川原委員)</p>
<p>12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか</p>	<p>各講義終了後には授業アンケートを実施し、担当教員とともに次回への検討材料としている。また最終学年終了時には学校生活全般へのアンケートを実施し、学校運営に役立っている。</p>	<p>講義アンケートにより、各科目におけるフィードバックが得られるようにしている。また教員により独自に科目内における他己評価を実施し、自身の教授内容に反映できるように取り組んでいる。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 十 十 十 十 ← つ → 分 う 分</p>	<p>アンケート内容をより講義内容に反映できるようにする必要があり、またそれは学生のニーズを正確に反映させることが重要である。学生による評価が全てではないものの、客観的にみて修正が必要なものであれば、積極的に取り組んでいく必要があると考える。</p>	<p>授業アンケートはあくまで教員の自制を促すものが望ましいので、改善のヒントとして活用してもらいたい(大原委員) 学生のみならず教員からも講義内容を評価して担当教員は外部講師に改善点を指摘している(川原委員) 外部講師にも同様にアンケートを実施し、より多くの授業内容の改善を図ると良いと思いません(谷川委員) 授業アンケート、フィードバックは質の向上のために必要。公開授業はされていますか?(酒井委員) 学生アンケートで「授業改革の取組」のレポートを提出してもらおうのも一案だと思われる(宮野委員)</p>

## 2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者評価コメント																				
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	学生人数に対して教室や治療実習室、機能回復訓練室など適正な教室数を確保している。また治療用ベッド等、学内講義に於いて必要な物品を整理、利用できるよう適宜調整している。	使用頻度の低い教室は、3年生の国家試験対策等では新型コロナウイルス感染予防対策による密を避けた利用が出来る。	<table style="border: none; text-align: center;"> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>+</td> <td></td> <td>ふ</td> <td></td> <td>+</td> </tr> <tr> <td></td> <td>←</td> <td>つ</td> <td>→</td> <td></td> </tr> <tr> <td>分</td> <td></td> <td>う</td> <td></td> <td>分</td> </tr> </table>	5	4	3	2	1	+		ふ		+		←	つ	→		分		う		分	各教室内における附帯設備については、今後も適宜必要な物品の補充及び改修を進めていく。	必要と思われる実習スペース、実技スペースは確保できている（川原委員）  設備は充分なものだと感じられ、コロナ対策もされている（酒井委員）
5	4	3	2	1																					
+		ふ		+																					
	←	つ	→																						
分		う		分																					
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	図書室に於いては必要な図書を随時追加しており、また雑誌類についても定期的に検討をしながら学内教育に耐え得る体制を提供できている。また学生の要望に応じた活用ができるようにしている。	例年と同じく蔵書数としては図書・雑誌を含めて分量であり、かつ活用できる環境を整えている。しかしながら学生自身が図書を使って学習しなくなっているのも実情である。	<table style="border: none; text-align: center;"> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>+</td> <td>+</td> <td>ふ</td> <td></td> <td>+</td> </tr> <tr> <td></td> <td>←</td> <td>つ</td> <td>→</td> <td></td> </tr> <tr> <td>分</td> <td></td> <td>う</td> <td></td> <td>分</td> </tr> </table>	5	4	3	2	1	+	+	ふ		+		←	つ	→		分		う		分	学生の教育に有益な図書に関しては、必要に応じて追加できるように継続して管理していく。学習に効果的な図書については、定期的に教員や講師からの情報を収集して、学生に提示できるよう検討していく。	十分な蔵書数があり、問題ないと考えられる。ネットなど有料文献など検索出来ればより充実する（川原委員）  学生のことを考え、十分な対応ができている（酒井委員）  デジタル器材を導入して、旧来の図書室でなく、ワークラボ的な運用の変更も必要だと思われます（宮野委員）
5	4	3	2	1																					
+	+	ふ		+																					
	←	つ	→																						
分		う		分																					
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	各部屋の数・広さに関しては現状、問題は見当たらない。また各部屋に附帯している備品に関しても、その数と状態を定期的に点検している。	指定規則に定められた必要な物品が揃えられている。特にリハビリロボットやICT教育に関する付帯設備は非常に充実しており、他校では見られない本校独自の特徴となっている。	<table style="border: none; text-align: center;"> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>+</td> <td></td> <td>ふ</td> <td></td> <td>+</td> </tr> <tr> <td></td> <td>←</td> <td>つ</td> <td>→</td> <td></td> </tr> <tr> <td>分</td> <td></td> <td>う</td> <td></td> <td>分</td> </tr> </table>	5	4	3	2	1	+		ふ		+		←	つ	→		分		う		分	教室設備と同様、学内備品の管理状態を確認し、必要に応じて修繕や新規導入を継続的に実施していく。	学生レベルで必要と思われる備品や設備は問題なく揃っている（川原委員）  設備は充分なものだと感じられ、コロナ対策もされている（酒井委員）  現場に直接携わっている担当者が修繕や新規導入を対応すべきだと思います（宮野委員）
5	4	3	2	1																					
+		ふ		+																					
	←	つ	→																						
分		う		分																					

<p>4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）</p>	<p>学内Wi-Fi環境も増強し、教室にも電子黒板を導入するなど学修効果のある取り組みを推進している。</p>	<p>ICT教育や、遠隔授業に対応すべく昨年度導入した視聴覚機器が有効に活用されている。</p>	<p>5 十 分</p> <p>4</p> <p>← つ →</p> <p>3 2 1 ふ 不 う 十 分</p>	<p>ICT教育の環境づくりに関しては今後もアップデートを重ねていく。専任教員を中心に積極的に学内講義を導入し、より学習効果を高められるように取り組んでいく。</p>	<p>学生が講義に集中できるよう環境が整っている（川原委員）</p> <p>最新機器を取り入れ、不自由な印象を受ける（酒井委員）</p> <p>一般教職員向けの研修会を定期的に複数回実施しなければと思います。最優先研修だと思えます（宮野委員）</p>
<p>5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）</p>	<p>法人で共通の学生寮を保有しているが、遠方からの入学者は本校に近い一般のワンルームマンションを選ぶ傾向にある。</p>	<p>法人の学生寮は希望者が多く関連校の学生に有効に活用されている。本校の近くに学生寮があれば活用できると思われるが、物理的な距離があるため活用できていない。</p>	<p>5 十 分</p> <p>4</p> <p>← つ →</p> <p>3 2 1 ふ 不 う 十 分</p>	<p>学生が快適で安心安全に学生生活を送れるように、今後も学校として近隣の業者とも連携をとり、賃貸マンション情報等の収集に努める。</p>	<p>学生寮、住居斡旋などニーズに応じた対応ができる（川原委員）</p>
<p>6. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）</p>	<p>学内に体育館は保有しないが、近隣にグラウンドを保有している。体育の授業では関連校の体育館を利用している。</p>	<p>グラウンドについては使用頻度が低いですが、地域貢献の一環として地元の老人会イベントやスポーツ活動に有効に利用されており、地域貢献の一環としての側面もある。</p>	<p>5 十 分</p> <p>4</p> <p>← つ →</p> <p>3 2 1 ふ 不 う 十 分</p>	<p>今年度も新型コロナウイルス感染対策の観点より、積極的な体育館の利用を控える場面が多かった。今後の状況次第ではあるが、徐々に本来の利用が出来るように戻していきたい。</p>	<p>グラウンド、法人内の体育館があり、大きな問題はないと思われる（川原委員）</p> <p>今後はコロナ禍におけるルールを遵守しながら体育館も利用できれば良いと考える（酒井委員）</p>

### 3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者評価コメント
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	原則 2 名によるクラス担任制をとり、学生の状態に応じて臨機応変に対応している。問題が生じた場合は他教員も含め、保護者も含めた包括的な取り組みが行えるようにしている。	原則的に各学年を担当する教員による対応をベースとするが、対応が難しいケースにおいては、教員間で情報共有をしつつ、より適切な対応が取れるように努力している。	5 十 分	学生対応における基本的な基準は、教員による人間力に依る要素も大きい。自らの経験則だけに頼らない俯瞰的な判断が出来るよう、情報共有を欠かさず、一定のルールづくりを徹底していく。	主・副担当が熱心に学生との関係を築いている（川原委員）  十分な対応だと考える（酒井委員）
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	専門的なものでなければその都度、担任を中心に対応している。 学生が希望すれば、臨床心理士によるカウンセリングを随時実施している。カウンセリングについて、学生が学内で受けることは可能である。	例年同様、学内では教職員が学生にとって相談しやすい配慮や環境作りを行っている。また臨床心理士によるカウンセリングもプライバシーを遵守しながら、定期的にも実施できている。	5 十 分	学生が有する心理的側面の問題は、年々多様化しており、その内容も複雑である。画一的な対応では困難なケースも多くなっており、また背景には家庭環境に大きく影響されていることも多いので、臨床心理士による専門的な視点での介入も含めた総合的なシステム構築が必要である。	悩みを内に込めてしまうと鬱などの症状にもなり得るため、利害関係のない人と気軽に話が出来た環境も大切でないかと思う（大原委員）  法人内の臨床心理士がカウンセリングを行っている（川原委員）  心理士と教員との関わりも増やしていき、学生に対してより良いカウンセリングが行える環境づくりが必要だと思います（谷川委員）  十分な対応だと考える（酒井委員）  最近では学生より保護者の方が深刻な状況にある場合もあり、解決が困難なケースが多いので、チームで対応することが重要だと思います（宮野委員）
3. 教室以外に休憩スペースが適度に置かれていますか	学内ラウンジが休憩スペースに該当する。その他食事や学生同士の交流場所として活用している。	今年度は密を避けるため、従来の休憩スペースだけでなく、他の場所においてもラウンジと同様の利用ができるようにするなど弾力化した対応が取れた。	5 十 分	学生にとって利用しやすい休憩スペースや生活環境の見直しに加えて学内における教室使用ルールの遵守や理解を深めていくよう促す必要がある。	学生ラウンジがあり、問題ないと思われる（川原委員）  ゆとりのある建物の為、他の場所の活用もできるのでは？（酒井委員）  学校独自の「コロナ対策 10 ヶ条」のようなものを策定して教室掲示する方法も（宮野委員）

4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	売店は設置されていない。食事は主に学生ラウンジと教室を利用している。ラウンジには冷蔵庫やレンジ、キッチン等があり、学生が適宜使用できるようにしている。	学内に食堂や売店はないが、近隣にも食事を購入できる施設（コンビニやスーパー）があり、現状では恵まれた環境であると言える。	5 + 分	④ ← う	3 ふ →	2 不 +	1 分	学内の構造上、今後も売店などの設置は困難である。密を避けた結果、食事スペースが少なくなることについては、利用できるエリアを拡大するなど更なる検討を続ける。	
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	留年生に対しては特別学費支援制度を導入しており、継続的な学習ができるような経済面でのサポートを実施している。学校独自の奨学金は現状設けていない。	特別学費支援制度については今年度も該当者がほぼ利用し、継続的な学習ができる意欲を担保するのに一定の効果があったと考える。	5 + 分	④ ← う	3 ふ →	2 不 +	1 分	特別学費支援制度以外にも、今後は特待生制度等の成績優良者に対する支援制度も模索していきたい。	留年生以外には独自の支援がないので、今後検討していく必要あり（川原委員）
6. その他	学生の交通手段として適応範囲を限定した上で、車での通学を許可している。また子育て支援として、関連施設であるこぐま園を利用できる。	育児をする必要がある学生に対して、勉学に集中できるよう、こぐま園への送迎の利便性を考慮して、車通学を許可している。	⑤ + 分	4 ← う	3 ふ →	2 不 +	1 分	学生の家庭環境により勉学に臨むことが困難になる場合がある。そのような様々な状況が増えてきているが、それに対応するため適宜規則を柔軟に運用している。	

#### 4 教育面などでの特筆すべき取り組み(自由記入)

- ・Google Workspace の運用により、教材の配信等が実用的となり、より効果的な学習支援が実践できている。
- ・ロボティクスリハ教育の充実が進められており、これは他校で見られない本校独自の特徴である。
- ・様変わりする臨床実習の学習を支援するために、本校独自の思考過程整理ツールや実習管理システムを開発・運用している。

以上